

令和 3 年

第 6 回 教 育 委 員 会 会 議

報告事項

秋田県教育委員会

令和２年度秋田県学習状況調査 結果の概要

令和３年３月２５日

義 務 教 育 課

○調査の概要

【趣旨】

学習指導要領の内容の定着度等を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題を捉え、学習指導の工夫改善を図るとともに、全国学力・学習状況調査、本調査及び高校入試を活用して、学習指導における検証改善サイクルを確立し、児童生徒の学力向上に資する。

【調査対象】

小学校第4～6学年及び中学校第1、2学年の児童生徒
(義務教育学校対象学年の児童生徒、特別支援学校の対象となる児童生徒を含む)

【調査内容】

○教科に関する調査

小学校第4学年 … 3教科(国語、算数、理科)
小学校第5学年 … 4教科(国語、社会、算数、理科)
小学校第6学年 … 4教科(国語、社会、算数、理科)
中学校第1学年 … 5教科(国語、社会、数学、理科、英語)
中学校第2学年 … 5教科(国語、社会、数学、理科、英語)

※令和2年度については、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校等の影響を考慮し、調査内容の縮減や調査問題数の削減を行った。

○学習の意欲等に関する質問紙による調査

「学習習慣や学校生活についての意識」「各教科等の学習に対する意識」
「読書についての意識」等の項目による

【参加学校数及び児童生徒数】

○参加学校数

・小学校等 194校 (特別支援学校小学部2校を含む)
・中学校等 113校 (特別支援学校中学部1校を含む)

○参加児童生徒数

・小学校第4学年…6,600人 ・中学校第1学年…6,969人
・小学校第5学年…6,856人 ・中学校第2学年…7,106人
・小学校第6学年…6,981人

※参加人数は教科等によって若干の変動があるため、各学年での調査のうち、最も多くの児童生徒が取り組んだ教科等での数値を示している。

【調査実施日】

○小学校 … 令和2年12月2日(水)～12月18日(金)

○中学校 … 令和2年12月3日(木)～12月18日(金)

※令和2年度については、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校等の影響を考慮し、統一実施を取りやめ、調査実施期間内に各市町村教育委員会又は各学校の実情に応じて調査日を定め、実施することとした。

○結果概況と考察

【教科の学習状況に関する調査の結果について】

- 小学校では、全ての学年・教科において「おおむね満足」な状況である。
- 中学校では、第1学年の国語、数学、理科、英語、第2学年の国語において「おおむね満足」な状況である。県平均通過率が低い学年・教科においては、既習の知識や技能等を活用して、思考・判断し表現することについての問題の通過率が低いことが、平均通過率に影響を及ぼしている。

中学校第2学年の平均通過率が低かったことを受けて、学習内容の系統性を踏まえた指導を一層工夫することが必要である。また、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るとともに、習得した知識及び技能を活用して課題を解決する学習活動の一層の充実を図る必要がある。

【学習の意欲等に関する質問紙調査の結果について】

- 学習に対する意欲については、全ての学年で肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）の割合が高い。特に、「勉強は大切だ」については、学年を問わず高い傾向にある。また、「学校の勉強がよく分かる」については、小学校第4学年と中学校第1、2学年において、この3年間で最も高い数値を示しており、教師が児童生徒の学習の状況を見取り、個に応じた指導の手立てを工夫していることがうかがえる。
- 生活全般については、全ての学年で肯定的な回答の割合が高い。ただし、「自分にはよいところがあると思う」については、小学校の数値がこの3年間で最も低くなっていることから、学校生活の様々な場面において、児童の自己肯定感を高める働き掛けを、一層充実させていく必要がある。
- 日頃の授業に関する質問については、全ての学年で肯定的な回答の割合が高い。また、全ての質問において、小学校よりも中学校の方が高い傾向にある。「学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」に対する肯定的な回答の割合が高いことから、各学校において、新型コロナウイルス感染予防の対策を講じながら、児童生徒による話合いの場を工夫して設定している様子が見える。
- 家庭学習については、小・中学校とも、平日のみならず、休日にも多くの時間を学習に当てている様子が見える。特に、休日に2時間以上勉強している児童生徒の割合は、昨年度よりも増加している。

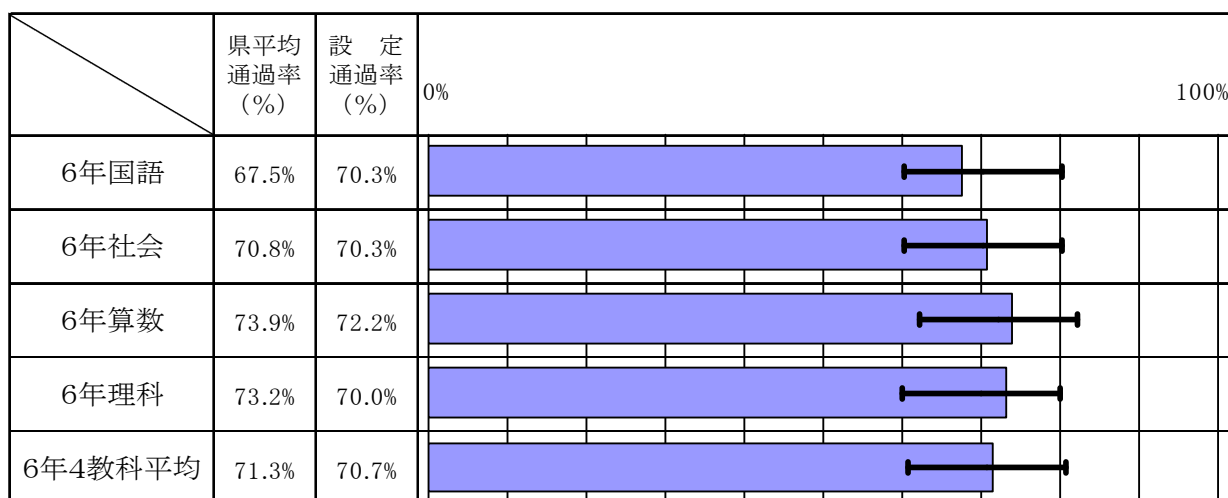
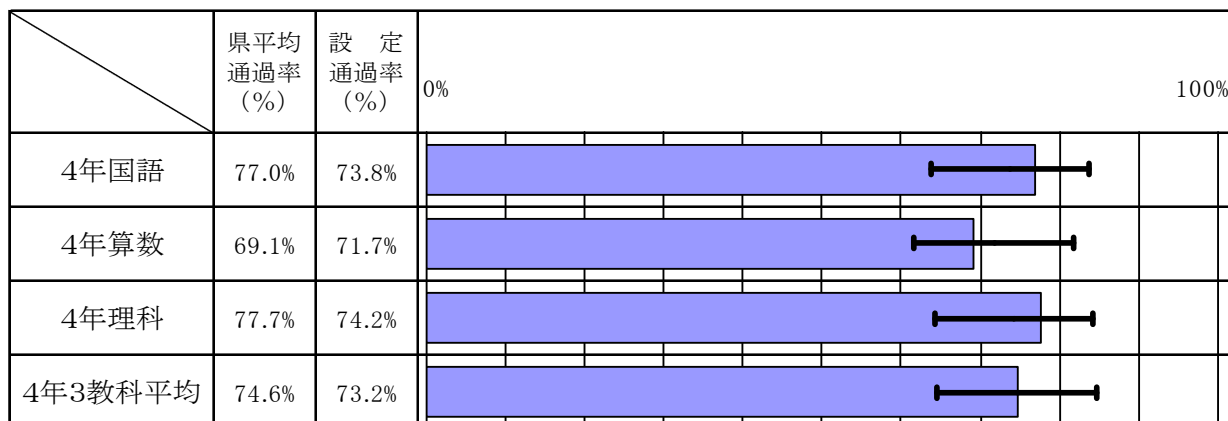
ほぼ全ての質問項目において、肯定的な回答の割合が高い状況を維持していることから、本県の児童生徒は、コロナ禍にあっても、生活や学習に前向きな態度で取り組んでいる様子が見える。これは、各学校が、新型コロナウイルス感染症対策を適切に講じ、児童生徒が安心して学校生活を送り、主体的・対話的に学びを深めることができるよう、様々な工夫を凝らした取組を行うとともに、自校の特色を生かして進めている「地域に根ざしたキャリア教育の充実」や「“『問い』を発する子ども”の育成」に向けた取組等を通して、望ましい生活習慣や学習習慣を育てていることが要因であると考えられる。

1 教科に関する調査の結果

通 過 率 ：	各問題ごとの正答した児童生徒の人数の割合（各学校の通過率の例：50人中30人が正答していれば60%）
平均通過率 ：	全問題の通過率の平均（100点満点に換算したときの平均点とみることができる。）
設定通過率 ：	問題ごとに、どの程度の通過率であれば「おおむね満足」な状況とするかをあらかじめ定めた値（分析する上で参考として示している。）

(1) 小学校の平均通過率 （グラフの ──── は設定通過率の±10%の範囲）

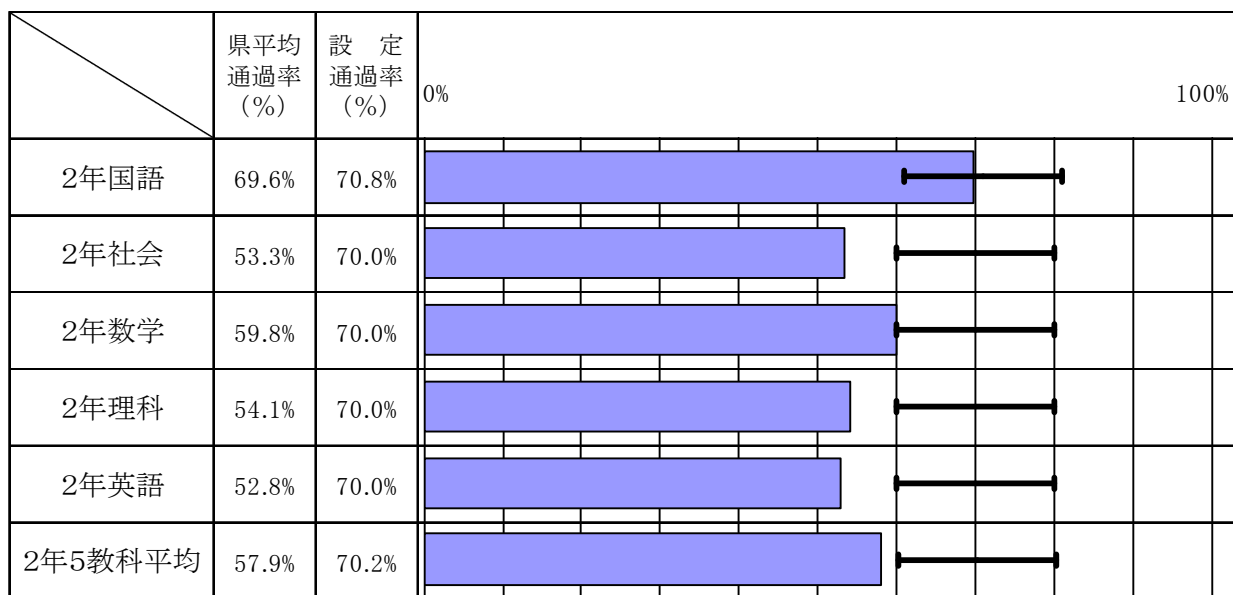
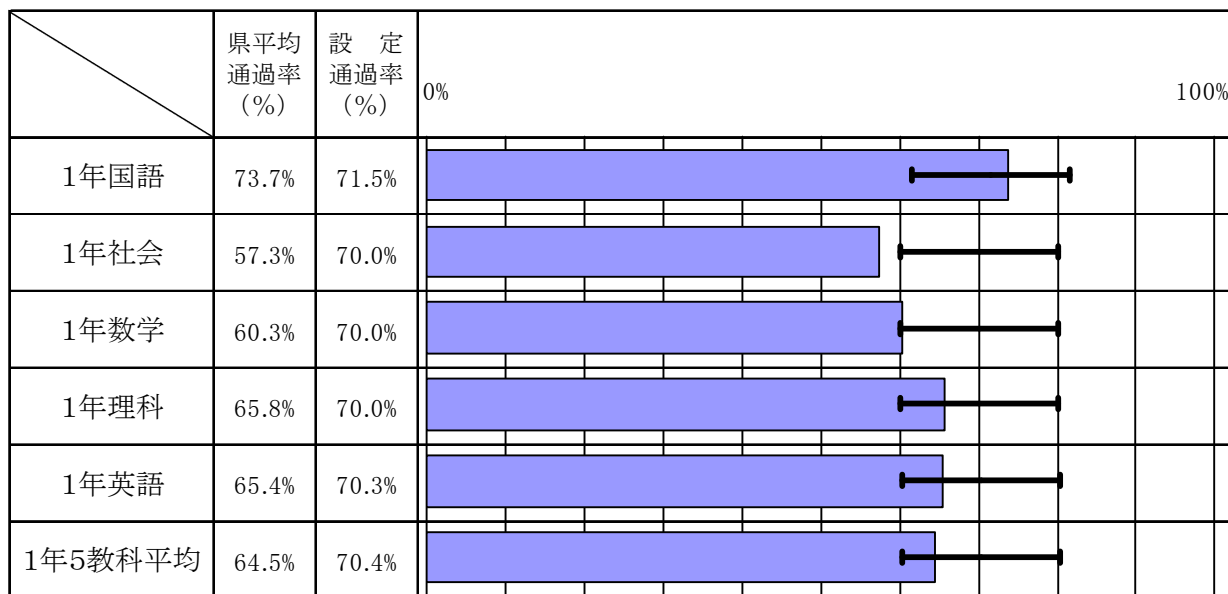
設定通過率の+10%を上回るものを「十分満足」、設定通過率の±10%の範囲内を「おおむね満足」な状況とする。



小学校では、全ての学年・教科のそれぞれの結果が設定通過率の±10%の範囲内にあり、全体的に「おおむね満足」な状況にある。

(2) 中学校の平均通過率 (グラフの ■————■ は設定通過率の±10%の範囲)

設定通過率の+10%を上回るものを「十分満足」、設定通過率の±10%の範囲内を「おおむね満足」な状況とする。

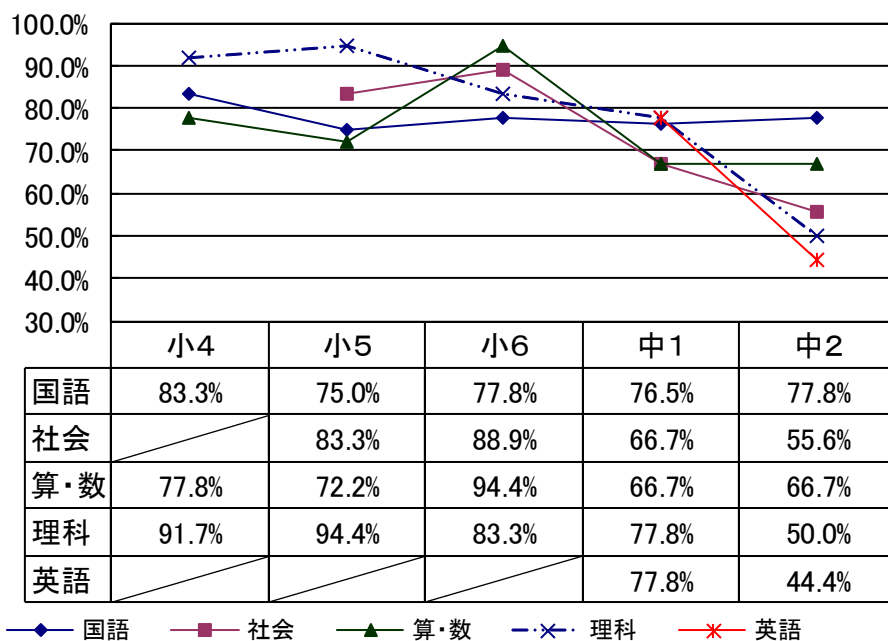


中学校第1学年では、国語、数学、理科、英語が、中学校第2学年では国語が設定通過率の±10%の範囲内にあり、「おおむね満足」な状況にある。設定通過率に対して10%以上下回った学年・教科においては、習得した知識や技能を活用し、思考・判断・表現する問題の通過率が低い傾向が見られる。

(3) 設定通過率との比較

設定通過率の+10%を上回るものを「十分満足」、設定通過率の±10%の範囲内を「おおむね満足」な状況とする。

設定通過率に対する「十分満足」「おおむね満足」な状況の問題の割合



出題した全設問のうち、「十分満足」及び「おおむね満足」な状況の設問総数及び割合は、363問中272問、74.9%であった。校種別では、小学校が83.7%（184問中154問）、中学校は65.9%（179問中118問）であった。

2 学習の意欲等に関する質問紙調査の結果

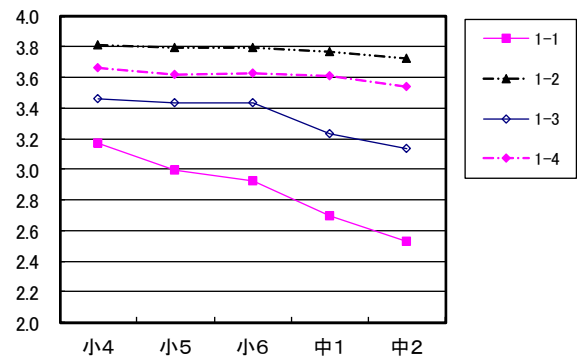
(1) 学習全般についての結果概況

質問項目

1-1	勉強が好きだ
1-2	勉強は大切だ
1-3	学校の勉強がよくわかる
1-4	ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい

- ・ 右のグラフは、調査項目の回答類型について、次のように点数に換算して作成。
「当てはまる」…4点
「どちらかといえば当てはまる」…3点
「どちらかといえば当てはまらない」…2点
「当てはまらない」…1点

4点換算による県の平均



(2) 学習全般について（抜粋）

[グラフ等の見方]

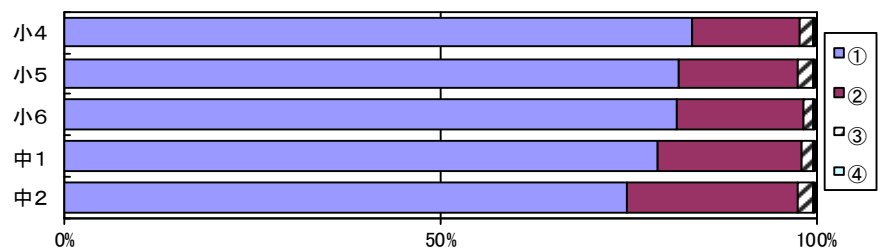
表及び帯グラフ……回答類型ごとの割合

折れ線グラフ……肯定的回答の割合の経年比較

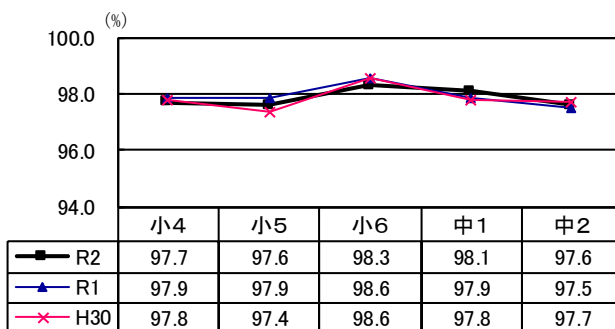
[1-2] 勉強は大切だ

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない

	①	②	③	④
小4	83.4	14.3	1.7	0.5
小5	81.8	15.8	1.9	0.4
小6	81.6	16.7	1.4	0.3
中1	78.9	19.2	1.4	0.5
中2	74.7	22.9	1.8	0.5

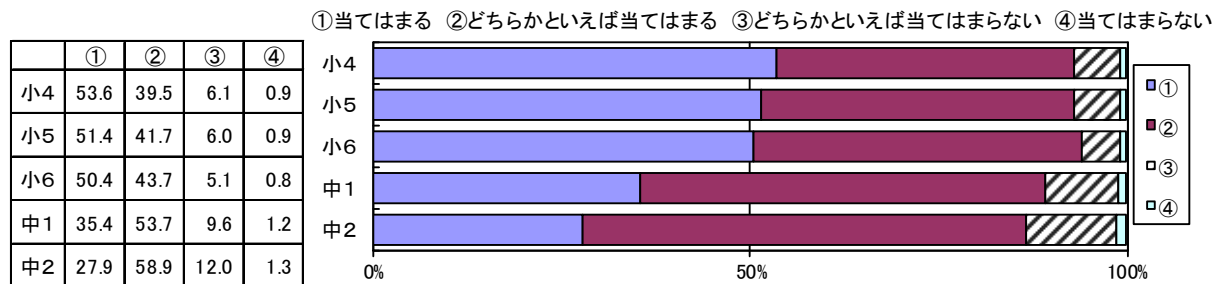


「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合

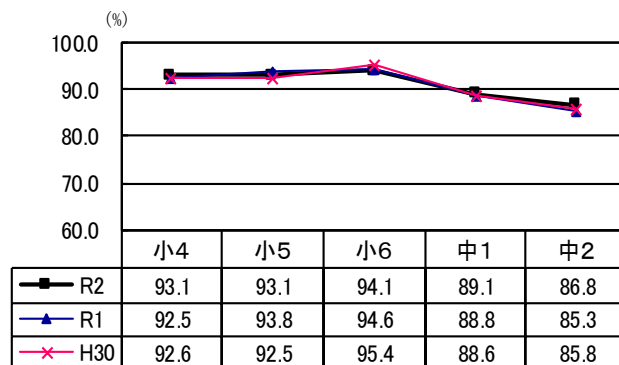


肯定的な回答の割合が、全ての学年で97%以上という高い状況である。中学校第1学年においては、この3年間で最も高い数値を示している。学ぶことの重要性や意義などを感じながら学習に取り組んでいる児童生徒が多いことがうかがえる。

[1－3] 学校の勉強がよく分かる



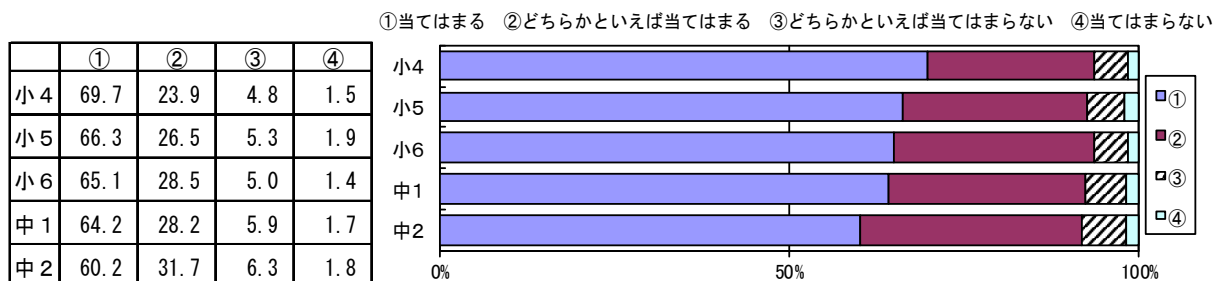
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



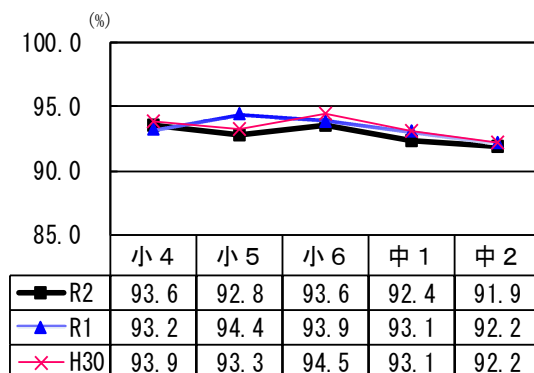
小学校では93%以上、中学校では86%以上が肯定的な回答をしている。小学校第4学年と中学校第1学年、第2学年においては、この3年間で最も高い数値を示している。各学校において、教師が児童生徒の学習の状況を見取り、個に応じた指導の手立てを工夫していることがうかがえる。

(3) 生活全般について（抜粋）

[2－1] 学校が楽しい



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合

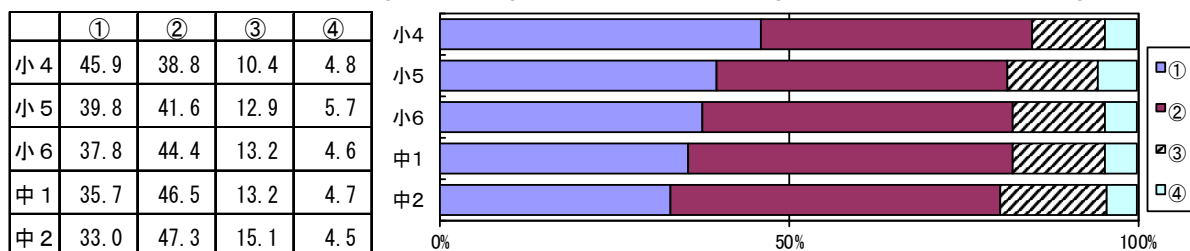


全ての学年で、肯定的な回答が91%以上であり、そのうち「当てはまる」という回答は60%以上である。

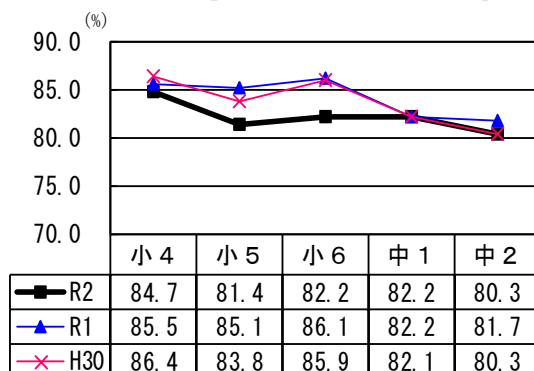
学校が児童生徒にとって伸び伸びと過ごせる楽しい場となるよう、各学校が児童生徒の実態を踏まえ、教育活動を工夫していることがうかがえる。

[2 - 2] 自分にはよいところがあると思う

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合

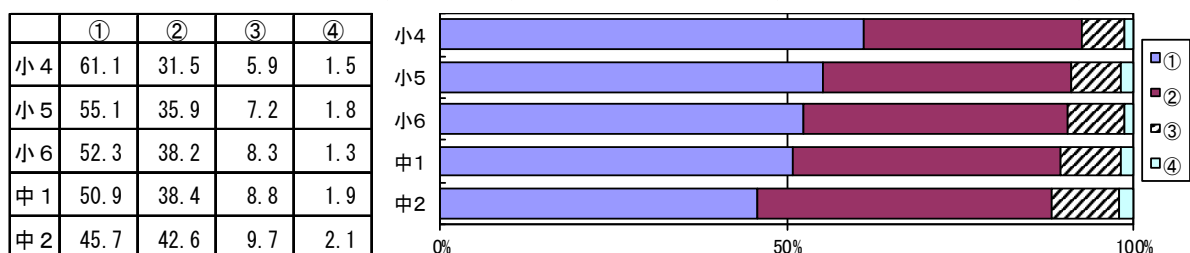


肯定的な回答の割合が、全ての学年で80%以上であるが、小学校においては、この3年間で最も低い数値となっている。

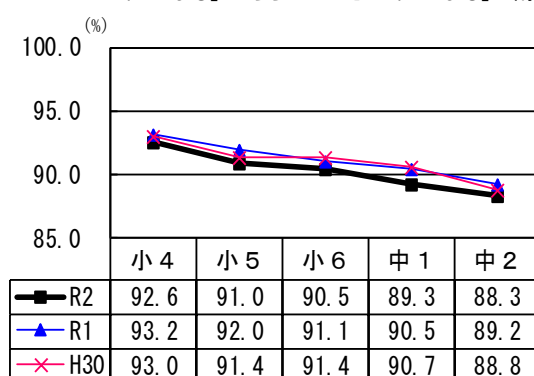
学校生活の様々な場面において、教師が児童生徒のよさを積極的に認めるなど、自己肯定感を高める働き掛けを、一層充実させていく必要がある。

[2 - 6] 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



定的な回答の割合は、小学校では90%以上、中学校では88%以上である。

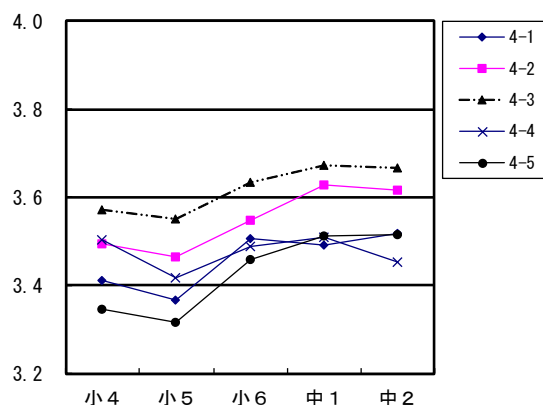
各学校の特色を生かしたふろさと教育やキャリア教育等の取組が、児童生徒の地域に対する愛着を育み、地域社会に貢献しようとする意欲の高まりにつながっていることがうかがえる。

(4) 授業についての結果概況

質問項目

- 4-1 自分の考えを発表する機会があると思う
 4-2 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う
 4-3 授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う
 4-4 自分の学習活動を振り返る活動を行っていると思う
 4-5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

4点換算による県の平均



・右のグラフは、調査項目の回答類型について、次のように点数に換算して作成。

「当てはまる」…4点

「どちらかといえば当てはまらない」…2点

「どちらかといえば当てはまる」…3点

「当てはまらない」…1点

(5) 授業について（抜粋）

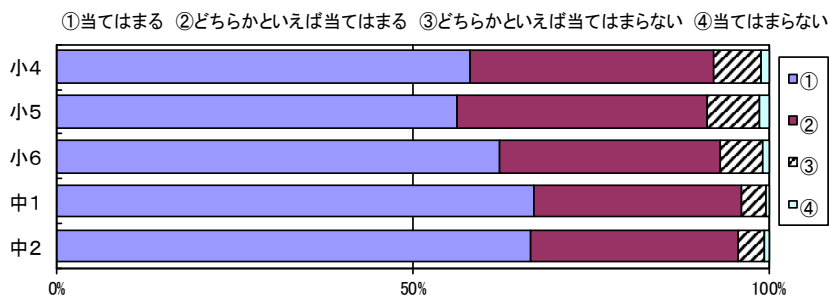
[グラフ等の見方]

表及び帯グラフ……回答類型ごとの割合

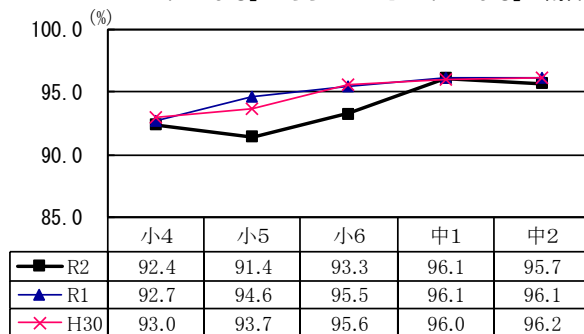
折れ線グラフ……肯定的回答の割合の経年比較

[4-2] ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う

	①	②	③	④
小4	58.2	34.2	6.5	1.1
小5	56.3	35.1	7.4	1.2
小6	62.3	31.0	5.8	0.9
中1	67.1	29.0	3.5	0.4
中2	66.6	29.1	3.7	0.6



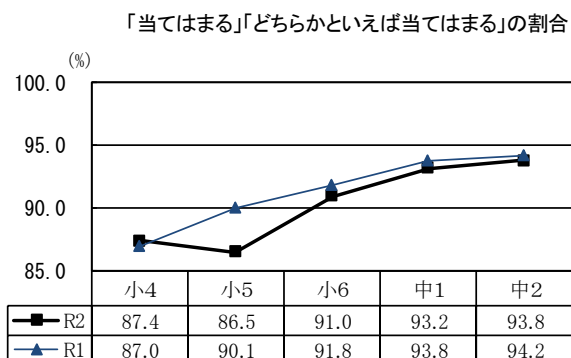
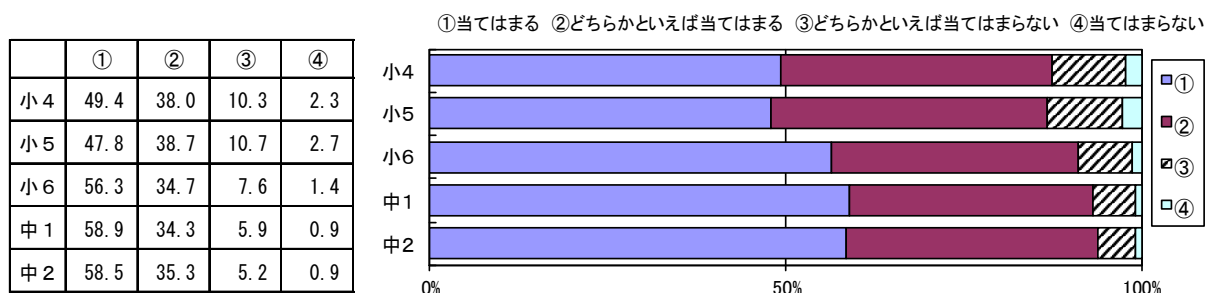
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



肯定的な回答の割合が、前年度と比べるとどの学年も同程度又は低くなっているものの、全ての学年で91%以上と高い状況にある。

各学校において、新型コロナウイルス感染症への感染防止の対策を講じながら児童生徒による話し合いの場を工夫して設定し、児童生徒同士が協働して課題解決に取り組んだり探究したりする学習活動を充実させようとしている様子が見えてくる。

〔４－５〕 ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

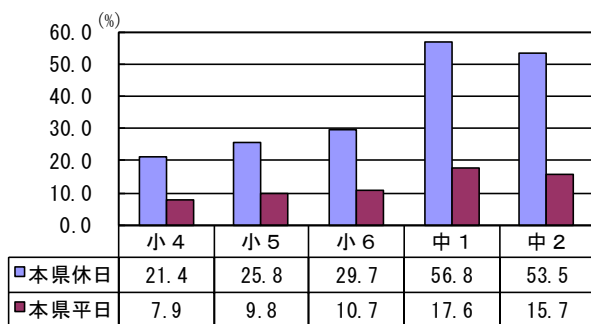


肯定的な回答の割合が、小学校では86%以上、中学校では91%以上である。小学校よりも中学校の方が数値が高い傾向にある。また、小学校第5学年は他学年に比べて低くなっている。

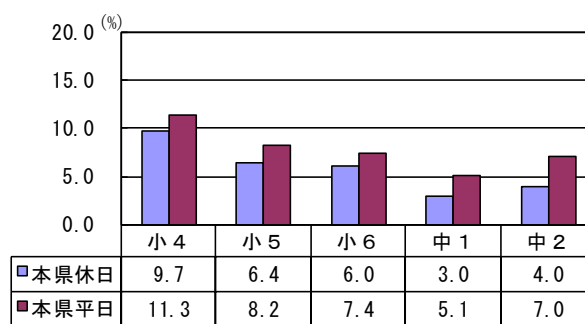
他者の多様な考えに触れることが、自分の考えを広げたり深めたりする上で役立つことを児童生徒が自覚できるよう、各教科等の特質に応じて、話し合う活動を一層充実させる必要がある。

(6) 家庭学習について

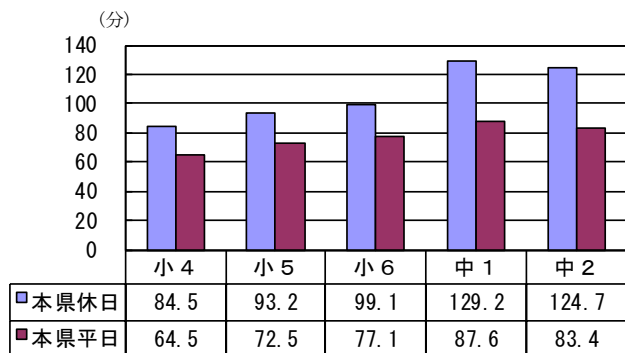
2時間以上の割合



全くしない又は30分未満の割合



家庭学習の平均時間

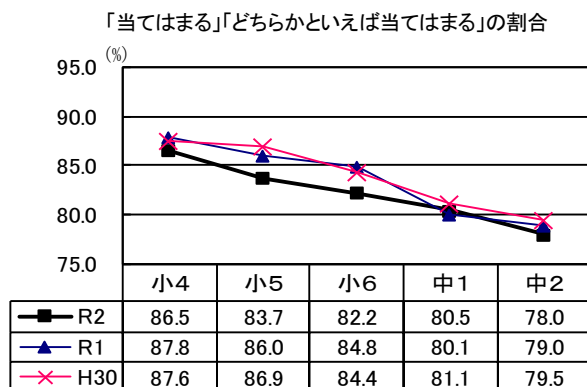
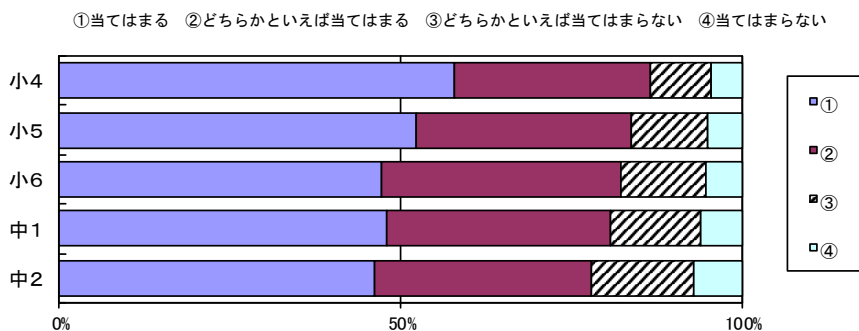


小・中学校とも、平日より休日の勉強時間が長いこと、小学校より中学校の方が家庭学習の平均時間が長いことなど、全体的には昨年度までと同様の傾向である。また、小・中学校とも、休日に2時間以上勉強している児童生徒の割合が、昨年度よりも増加している。一方、「全くしない又は30分未満」と回答した割合が、小学校第6学年では平日、休日とも昨年度と比べてやや増加している。

(7) 読書について

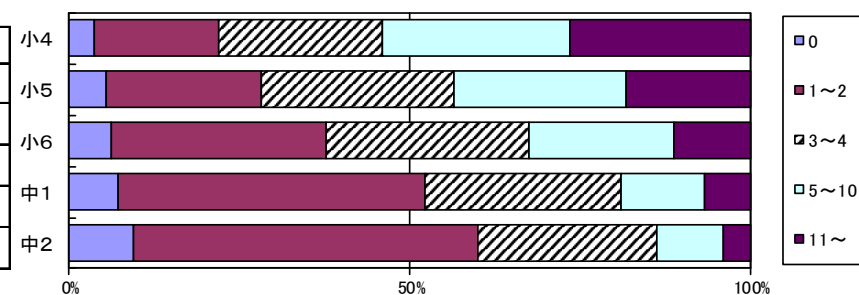
[読書は好きだ]

	①	②	③	④
小4	57.8	28.7	8.9	4.7
小5	52.3	31.4	11.3	5.0
小6	47.2	35.0	12.4	5.4
中1	47.9	32.6	13.4	6.0
中2	46.2	31.8	14.8	7.2



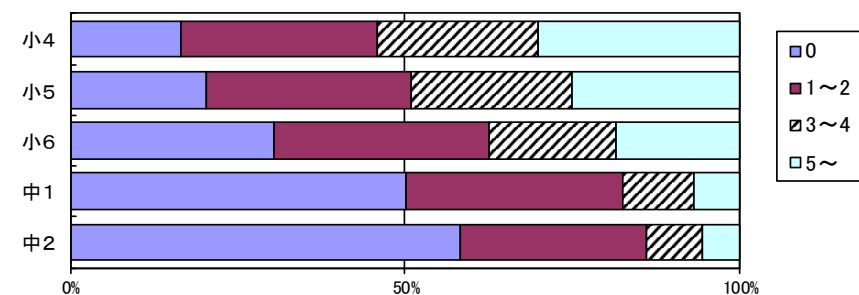
[1か月に何冊くらい本を読むか(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録を除く)]

	0	1~2	3~4	5~10	11~
小4	3.7	18.2	24.0	27.8	26.4
小5	5.3	22.9	28.3	25.4	18.3
小6	6.1	31.6	29.7	21.3	11.3
中1	7.2	45.1	28.8	12.3	6.6
中2	9.4	50.5	26.4	9.8	3.9



[1か月に何回くらい図書館を利用するか]

	0	1~2	3~4	5~
小4	16.4	29.5	24.0	30.0
小5	20.3	30.7	24.0	25.0
小6	30.4	32.1	19.2	18.3
中1	50.2	32.3	10.7	6.7
中2	58.3	27.9	8.3	5.5



全ての学年において、児童生徒の78%以上は読書が好きだと回答している。また、全ての学年の児童生徒の90%以上が1か月に1冊以上の本を読んでおり、特に小学校では、1か月に5冊以上の本を読んでいる児童が32%以上いることから、日常的に読書に親しんでいる様子がうかがえる。図書館等の利用回数について、月に1回以上利用しているのは、小学校ではおよそ7割以上、中学校では4割程度である。

3 調査結果の活用と課題への対応

(1) 調査結果及び報告書の送付

調査実施後、学習状況調査集計・分析システムを活用して各学校の入力データを集計し、1月下旬に調査結果を学力向上支援Webに掲載した。各学校や各市町村教育委員会では、その結果を閲覧し、自校や管下の学校の平均通過率を県平均通過率と比較するなどして指導の改善等に活用している。また、児童生徒自身が調査結果を基に学習内容の定着の程度を把握することに役立つよう、1月下旬に個人票印刷ファイルを配信した。3月下旬には、調査結果の概況及び考察等を加えた報告書を、「美の国あきたネット」で配信する予定である。

(2) 教科に関する課題

「おおむね満足」な状況に至らなかった学年・教科については、学習指導要領の趣旨等に基づき、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、身に付けた知識・技能を活用して主体的に問題を発見・解決するための思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の一層の充実を図る必要がある。授業についての質問紙調査の結果においては、各学校で児童生徒が対話を通じて学びを深めることができるように授業改善を進めている様子が見られることから、各教科等の特質に応じて適切な手立てを一層工夫することが求められる。

(3) 令和2年度における改善の手立て

①「調査結果の考察」の提示

県教育委員会は、本調査の結果の全県的な状況や明らかになった課題を踏まえ、教科における授業改善のポイントをまとめた「調査結果の考察」を2月上旬に配信した。

②次年度の授業改善に向けた取組の明確化

各市町村教育委員会及び各学校は、本調査の結果を基に成果と課題を明らかにし、次年度の授業改善に向けた方策をまとめる。

(4) 次年度の主な取組

①学力向上推進事業

・教科指導CTの活用による指導力向上プロジェクト

地域の教科指導において中核的な役割を担う教員（CT：コア・ティーチャー）による提示授業を基に授業研修会を行い、優れた授業づくりや指導技術等の普及を通して、本県教員の教科指導力の向上を目指す。

・学校訪問指導

全国学力・学習状況調査及び本調査の結果分析に基づく各学校の課題の改善に向けた取組と検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じて義務教育課及び各教育事務所・出張所、総合教育センターの指導主事等が、学校訪問等による指導を行う。

・学力向上支援Web及び学習支援ポータルサイト

単元評価問題、学習シート、動画教材等をWebサイトで配信し、基礎的・基本的な知識・技能等の定着を図るとともに、各学校の授業改善を支援する。

・理数才能育成プロジェクト～科学の甲子園ジュニア秋田県大会～

中学生を対象に科学好きの裾野を広げ、理数における思考力・表現力の育成を目指す。

②ICTを活用した秋田の教育力向上事業

・検証改善委員会

全国学力・学習状況調査の結果等の分析を基に、本県で推進している探究型授業の取組状況等について検証するとともに、ICTを活用した授業改善の実践事例等を「学校改善支援プラン」としてまとめ、教育指導に係る提言を行う。

令和2年度
秋田県高等学校学力・学習状況調査

結果の概要

高 校 教 育 課

1 調査の概要について

(1) 目的

高校段階での基礎的な学習の達成度を把握し、その結果を分析することにより、各校における学習指導の改善・充実に資するとともに、高校教育の質の保証を図る。また、高校生の進路志望や学習意欲、学習理解等に関する現状を把握し、各校における授業改善の方向性を定める。

(2) 対象生徒

高等学校の1年生、2年生

(3) 調査事項

① 教科に関する調査

〔国語（国語総合）、数学（数学Ⅰ）、英語（コミュニケーション英語Ⅰ）〕（2年生のみ）

② 学習状況調査

〔学習意欲、学習方法、学習環境〕（1年生及び2年生）

(4) 調査日

令和2年10月21日（水）

(5) 調査学校数・生徒数

① 学校数

県内のすべての県立、市立、私立高校の全日制及び定時制（54校）

② 生徒数

	1 年 生	2 年 生
公立全日制	6,427人（97.4%）	6,399人（97.6%）
公立定時制	194人（79.9%）	202人（84.2%）
私立全日制	757人（94.6%）	674人（96.1%）
合 計	7,378人（96.7%）	7,275人（97.1%）

※（ ）内の数値は、在籍する生徒に対する調査を受けた生徒の割合

(6) 調査結果の解釈等に関する留意事項

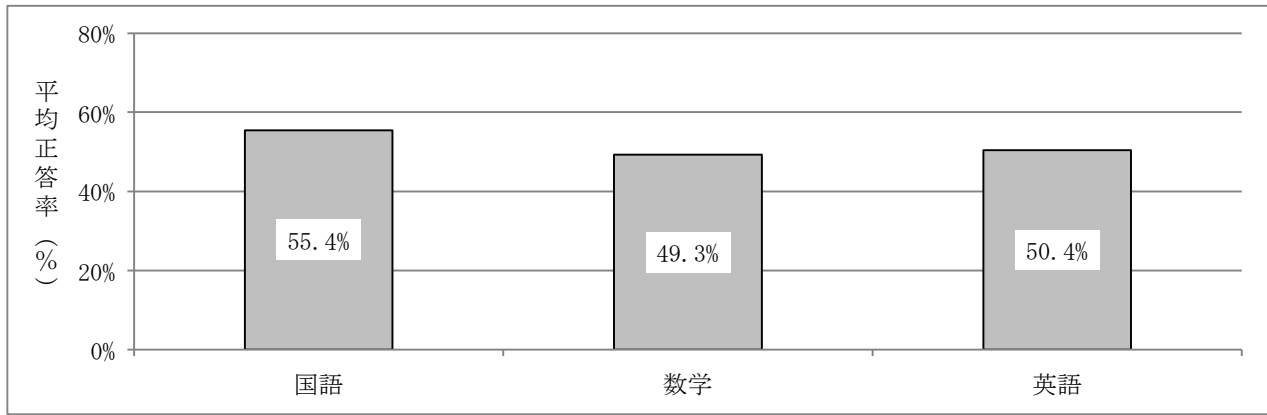
本調査の結果においては、国語、数学、英語の平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみではなく、生徒の誤答の状況等と合わせて、総合的に分析・評価することが必要である。

また、個々の設問や領域等に着目しながら学習指導上の課題を把握・分析することにより、各校における授業改善や、生徒一人一人の学習改善、学習意欲の向上等につなげていくことが重要である。

2 学力調査について

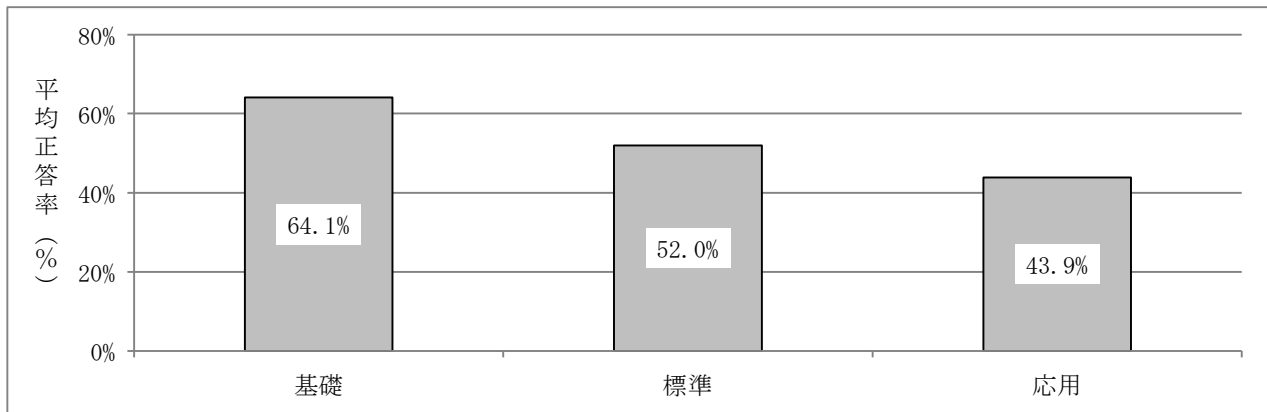
(1) 各教科の平均正答率

① 教科別平均正答率



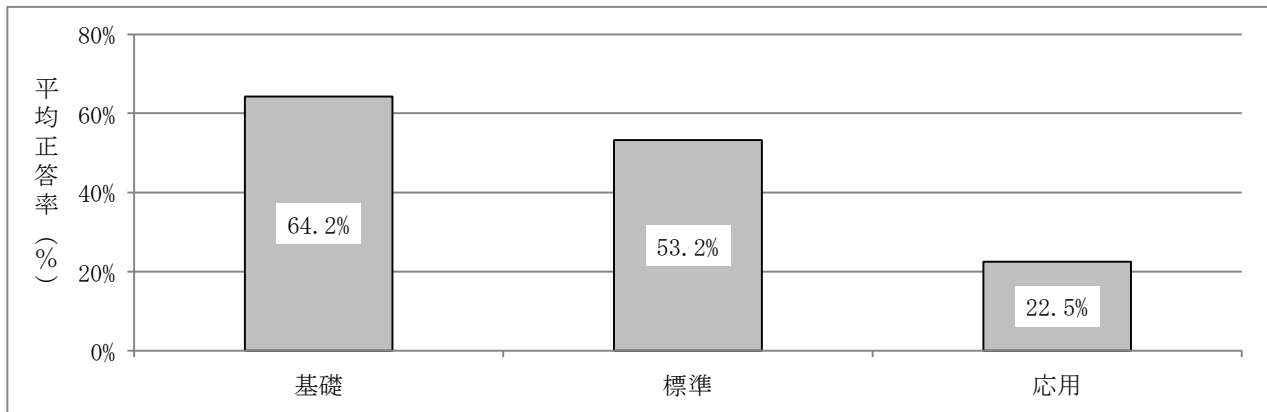
② 国語の難易度別平均正答率

【出題数】：27問（基礎11問，標準11問，応用5問）



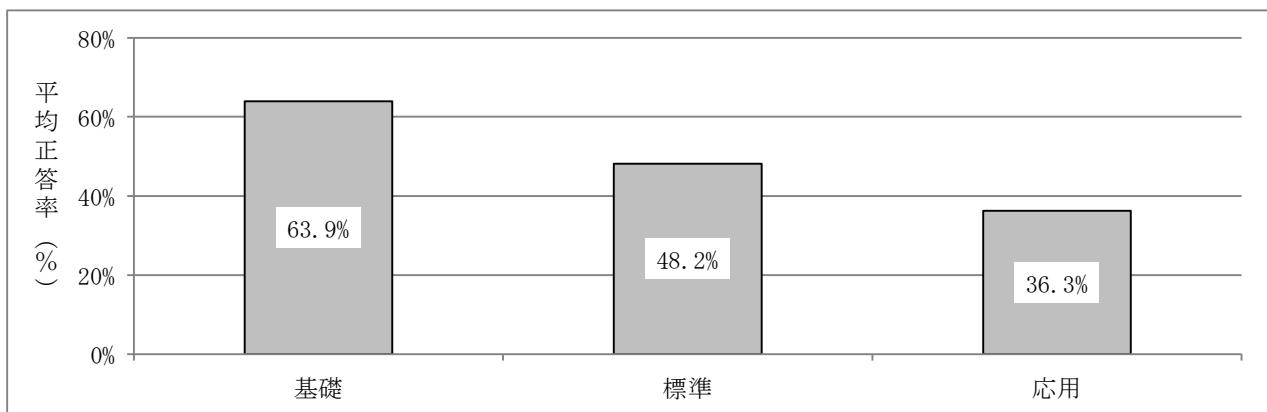
③ 数学の難易度別平均正答率

【出題数】：30問（基礎6問，標準18問，応用6問）



④ 英語の難易度別平均正答率

【出題数】：31問（基礎9問，標準16問，応用6問）



(2) 成果と課題

【国語】

① 成果

- ・ 文学的な文章においては、登場人物の心情を読み取る設問の正答率が高く（大問1 3、4）、説明的な文章においては、文章の内容を的確に読み取る設問の正答率が高い（大問2 13、14）。文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、まとめたり発表したりする言語活動や授業展開の成果と思われる。
- ・ 漢文において、正しく訓読することで内容を読み取ることにつながる設問の正答率が比較的高かった（大問4 23、24）。古典を理解するための基礎的・基本的事項を身に付ける指導が、丁寧に行われている成果と思われる。

② 課題

- ・ 文学的な文章においては、描写や構成の特徴を読み取ることに課題が見られた（大問1 5）。また、説明的な文章においては、筆者の主張を読み取ることに課題が見られた（大問2 15）。文章全体の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりする力を育成したい。
- ・ 古文、漢文ともに身に付けた基礎的・基本的な知識を活用して文章全体の 内容を的確に理解することに課題が見られた。

③ 授業において取り組むべきポイント

言語活動の一層の充実を図り、次の3点に留意して指導する。

- ・ 文章を表現に即して読み味わうとともに、構成や展開を確かめ、書き手の意図や主題を読み取る学習活動の充実を図る。
- ・ 古典における基礎的・基本的な知識を活用して、文章全体の内容を把握し、古人のものの見方・感じ方・考え方を読み味わう学習活動の充実を図る。
- ・ 語彙を豊かにし、文章を的確に理解する力や表現力を高める学習活動の充実を図る。

【数学】

① 成果

- ・ 数と式の分野において、二次式の因数分解、分母の有理化、一次不等式の計算など基礎的な計算の技能を問う設問の正答率が概ね高い。授業などにおいて既習事項の振り返りや反復練習を行うことなど、基礎的な技能の習熟を図っている成果と思われる。
- ・ 集合と論証の分野において、共通部分、補集合の要素を問う設問の正答率が高い。用語や定義の意味を正しく理解させる活動を通して、知識の定着を図っている成果と思われる。

② 課題

- ・ 三角比の分野において、鈍角の三角比の理解に課題が見られた。鋭角の三角比の考え方を鈍角まで拡張する意義を理解し、三角比の値について単位円を用いて図形的に考察させるような活動を取り入れるなどして、正しい理解を促したい。
- ・ データの分析の分野において、散布図の形状と相関係数の関係を問う設問では一定の成果が見られたが、散布図の変化に伴う相関係数の変化を問う設問では課題が見られた。データの一部を変化させたときに、相関係数や箱ひげ図にどのような変化が起こるのか、ICTを用いて仮説検証する活動を取り入れるなどして理解を深めさせたい。

③ 授業において取り組むべきポイント

数学的活動を一層重視し、次の３点に留意して指導する。

- ・用語や定義の意味について理解を深める活動を通して、知識の定着を図る。
- ・既習事項を関連する分野等において繰り返し活用する活動を通して、技能の習熟を図る。
- ・身近な事象を数学的に捉え、試行錯誤しながら問題を考察し解決する活動を通して、思考力、判断力、表現力等を養う。

【英語】

① 成果

- ・基礎的な英語を用いて視覚情報を適切に描写する設問の正答率が高い（大問１ 、）。基礎的な英語を用いて動作や状態などを表現する活動を継続的に行っている成果と思われる。
- ・読解において、短い文章の概要をとらえる設問の正答率は比較的高い（大問５ 、）。読み取った情報を整理し、意見を述べ合う活動を通じて段階的に深い理解を促す活動を行っている成果と思われる。

② 課題

- ・文法において、基本的な動詞の時制について課題が見られた（大問３ 、）。また、不定詞の形容詞的用法を用いた表現についても課題が見られた（大問４ 、）。いずれも既習の文法事項や文構造を活用して適切な表現を選択する設問である。コミュニケーションを図る目的や場面、状況等と言語材料を効果的に関連付けた言語活動を行うとともに、活動後に振り返りの場面を設けるなどして、文法事項や文構造を適切に活用する力の育成を図りたい。
- ・会話において、文脈に合った応答を選択する設問について課題が見られた（大問２ 、）。やり取りが行われる場面や目的を意識させ、その場で求められる応答を深く考えさせた。
- ・読解において、文章全体を通じての筆者の主張や意見を読み取る設問について課題が見られた（大問６ 、、大問７ ）。語句や表現に関する知識を活用して情報や考えなどの概要や要点、意図などを的確にとらえるとともに、読み取った内容について深く考える力を育成したい。

③ 授業において取り組むべきポイント

英語によるコミュニケーション能力の一層の向上を目指し、次の３点に留意して指導する。

- ・具体的な場面や目的、状況などを設定した言語活動を通じて、言語運用能力を高める指導の充実を図る。
- ・論理の構成や展開を意識し、筆者の主張や意見を正確に読み取る力を高める指導の充実を図る。
- ・聞いたり読んだりして理解したことや考えたことを伝え合う活動を通じて、表現力を高めるとともに理解や思考を深める指導の充実を図る。

(2) 教科別設問別正答率

① 国語

大問	解答番号	出題のねらい	難易度	活用	正答率	
1	1	語句の本文中での意味を正しく理解しているか。	基礎		41.3%	
	2	語句の本文中での意味を正しく理解しているか。	基礎		56.6%	
	3	登場人物の心情を表現や文脈から読み取ることができるか。	標準	○	86.8%	
	4	登場人物の心情を表現や文脈から読み取ることができるか。	標準	○	70.1%	
	5	描写の特徴や構成の特徴を読み取ることができるか。	応用	○	13.2%	
	6	言葉や表現に着目して、作品の表現の特徴を読み取ることができるか。	応用	○	55.7%	
2	7	文脈に適する漢字を理解しているか。	基礎		92.1%	
	8	文脈に適する漢字を理解しているか。	基礎		84.5%	
	9	文脈に適する漢字を理解しているか。	基礎		92.4%	
	10	文脈に適する漢字を理解しているか。	基礎		96.0%	
	11	文脈に適する漢字を理解しているか。	基礎		76.6%	
	12	文章の内容を的確に読み取ることができるか。	標準	○	58.1%	
	13	文章の内容を的確に読み取ることができるか。	標準	○	66.2%	
	14	文章の内容を的確に読み取ることができるか。	応用	○	72.8%	
3	15	筆者の主張を読み取ることができるか。	標準	○	44.9%	
	16	基本的な古語の意味を理解しているか。	基礎		39.2%	
	17	基本的な古語の意味を理解しているか。	基礎		43.5%	
	18	基本的な古語の意味を理解しているか。	基礎		32.3%	
	19	登場人物の心情を的確に読み取ることができるか。	標準	○	35.0%	
	20	登場人物の行動を的確に読み取ることができるか。	標準	○	42.9%	
	21	登場人物の状況や心情を的確に読み取ることができるか。	標準	○	44.5%	
4	22	和歌に込められた心情と和歌の修辞を理解しているか。	応用	○	46.4%	
	23	正しく訓読できるか。	基礎		50.2%	
	24	文章の内容を的確に読み取ることができるか。	標準	○	58.0%	
	25	文章の内容を的確に読み取ることができるか。	標準	○	39.2%	
	26	感嘆表現を正しく理解しているか。	標準	○	26.0%	
	27	文章全体の内容を読み取ることができるか。	応用	○	31.2%	

② 数学

大問		出題のねらい	難易度	活用	正答率	
1	(1) ア	一次不等式の解を求めることができるか。	基礎		84.5%	
	(2) イ	平行移動後の二次関数のグラフを表す式を求めることができるか。	標準		51.3%	
	(3) ウ	二次関数の最大値と最小値を求めることができるか。	標準		49.8%	
	(4) エ	二次不等式の解を求めることができるか。	基礎		56.8%	
	(5) オ	定義に従って余弦の値を求めることができるか。	標準		73.4%	
	(5) カ	定義に従って正接の値を求めることができるか。	標準		74.3%	
	(6) キ	四分位範囲の意味を正しく理解しているか。	標準		37.1%	
	(7) ク	散布図と相関係数の関係について正しく理解しているか。	標準		70.1%	
2	(1) アイウ	二次式の因数分解ができるか。	基礎		72.8%	
	(2) エ	分母の有理化ができるか。	標準		66.5%	
	(3) オ	絶対値記号の意味を正しく理解しているか。	標準		43.5%	
	(4) カ	二つの集合の共通部分の要素を求めることができるか。	標準		73.9%	
	(4) キ	補集合の要素を求めることができるか。	標準		77.7%	
	(5) ク	必要条件・十分条件を正しく理解しているか。	標準		44.6%	
3	(1) ア	二次関数の式を平方完成して、グラフの頂点の座標を求めることができるか。	標準		47.7%	
	(2) イ	二次関数の最大値と最小値に関する条件から定義域の右端の存在範囲を求めることができるか。	標準	○	47.1%	
	(3) ウ	二次方程式が異なる二つの実数解をもつ条件を正しく理解しているか。	応用		39.7%	
	(4) エ	二次関数の式の係数とグラフの特徴の関係について正しく理解しているか。	応用	○	33.1%	
4	(1) ア	鈍角の三角比の符号について正しく理解しているか。	基礎		55.1%	
	(2) イ	正弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるか。	標準		46.2%	
	(2) ウ	正弦定理を用いて三角形の外接円の半径を求めることができるか。	標準		32.9%	
	(3) エ	三角形の面積を求めることができるか。	標準		33.5%	
	(4) オ	三角比を身近な事象の考察に活用することができるか。	応用	○	33.0%	
5	(1) (i) ア	データから散布図をかくことができるか。	基礎		63.5%	
	(1) (ii) イ	散布図と相関係数の関係を正しく理解しているか。	標準	○	45.1%	
	(2) ウエ	箱ひげ図からデータの特徴を読み取ることができるか。	応用	○	10.4%	
6	(1) ア	グラフから必要なデータを読み取ることができるか。	基礎		52.7%	
	(1) イ	三角比を身近な事象の考察に活用することができるか。	標準	○	44.0%	
	(2) (i) ウエ	三角比を身近な事象の考察に活用することができるか。	応用	○	15.4%	
	(2) (ii) オカ	三角比を身近な事象の考察に活用することができるか。	応用	○	3.0%	

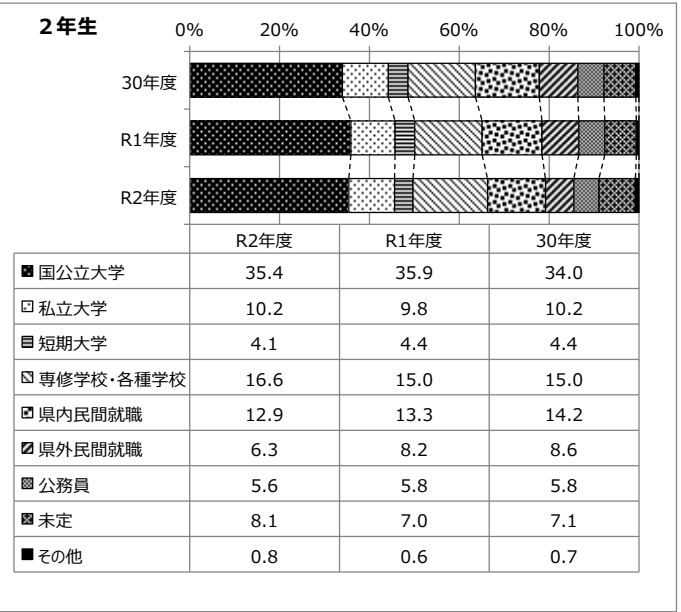
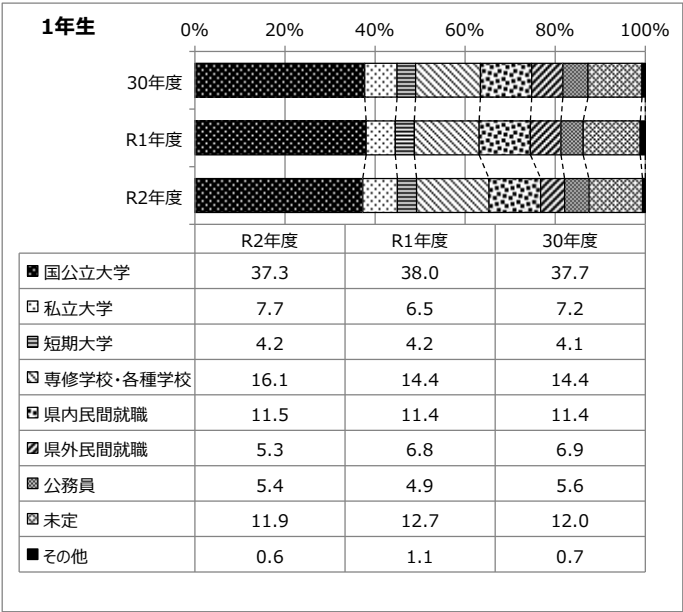
③ 英語

大問	解答番号	出題のねらい	難易度	活用	正答率	
1	1	親子と牛の様子について、動作を表すことばから正しい描写を判断できるか。	基礎	○	72.2%	
	2	家族と犬の様子について、動作を表すことばから正しい描写を判断できるか。	基礎	○	90.2%	
	3	室内の状況について、物の様子や状態を表すことばから正しい描写を判断できるか。	標準	○	75.8%	
	4	建物の中の状況について、人や物の様子、状態を表すことばから正しい描写を判断できるか。	基礎	○	90.5%	
	5	親子の様子について、人の動作や状態を表すことばから正しい描写を判断できるか。	標準	○	75.9%	
2	1-6	購入しようとしているシャツについて尋ねていることを理解し、正しい応答を判断できるか。	基礎		45.3%	
	2-7	ジェフの家族の心境を答えていることを理解し、正しい応答を判断できるか。	標準		43.1%	
	2-8	旅先での名所案内を依頼していることを理解し、正しい応答を判断できるか。	応用		50.6%	
	3-9	近況について尋ねていることを理解し、正しい応答を判断できるか。	標準		52.9%	
	3-10	休暇中の旅行について尋ねていることを理解し、正しい応答を判断できるか。	標準		55.3%	
3	11	文脈に合わせて適切な前置詞を選ぶことができるか。	応用		48.4%	
	12	適切な動詞の形を選ぶことができるか。	応用		26.7%	
	13	適切な選択肢を選んで付加疑問文を作ることができるか。	基礎		36.4%	
	14	文意が通るように適切な助動詞を選ぶことができるか。	標準		58.9%	
	15	文意が通るように適切な副詞を選ぶことができるか。	基礎		84.5%	
4	1-16, 17	to不定詞の形容詞的用法を用いて適切に表現できるか。	応用		21.0%	
	2-18, 19	疑問詞を含む文にdo you thinkを組み込んだ文を用いて適切に表現できるか。	標準		21.6%	
	3-20, 21	take part in ～を用いて適切に表現できるか。	基礎		35.7%	
5	22	デパートでの迷子に関するアナウンスであることを判断できるか。	基礎	○	74.4%	
	23	旅行中の所持品の管理についてのメッセージであることを判断できるか。	標準	○	46.8%	
	24	公演の延期とチケットの払い戻しに関するアナウンスであることを判断できるか。	標準	○	79.2%	
6	25	着座時間と心因的ストレスの関係について、内容を正しく表しているグラフを選ぶことができるか。	標準		50.7%	
	26	様々な職種における着座時間について読み取り、Figure 1のグラフの縦軸に当てはまる項目を正しく選ぶことができるか。	基礎		46.3%	
	27	新しく開発されたイスの特徴について正しく読み取ることができるか。	標準		38.2%	
	28	英文全体を読み、本文に書かれている内容を選ぶことができるか。	標準		31.9%	
	29	英文全体の流れを読み取り、最終段落の空欄に入れるのに適切な内容を選ぶことができるか。	応用	○	32.7%	
7	30	筆者が以前足をケガしており、足も気持ちも万全ではない状態でレースに臨んだことが理解できるか。	標準		29.0%	
	31	足の痛みに耐えながら、遅れをとって走る筆者の心情を読み取ることができるか。	標準		39.5%	
	32	ゴールした時に送られた声援が自分に向けてのものだとは気づかなかった筆者の心情を読み取ることができるか。	標準		36.6%	
	33	ある少女が筆者を応援していた理由を読み取ることができるか。	応用		38.1%	
	34	レースを通じて筆者があきらめないことの大切さを学んだことを理解できるか。	標準	○	35.4%	

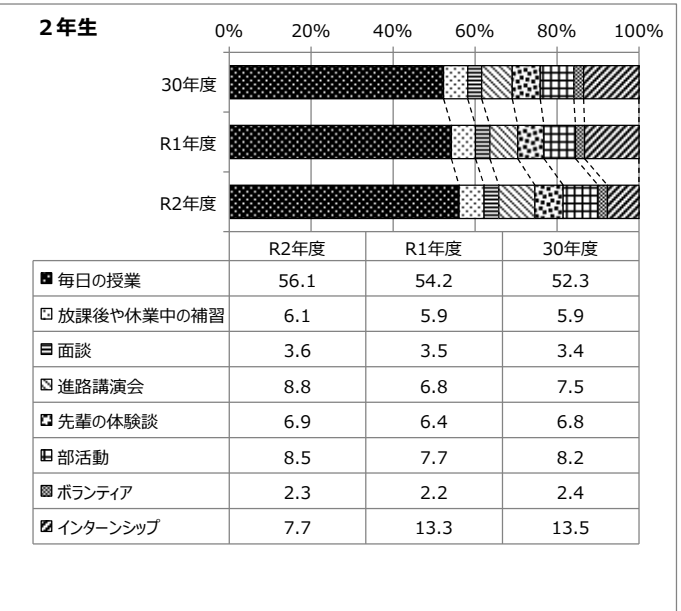
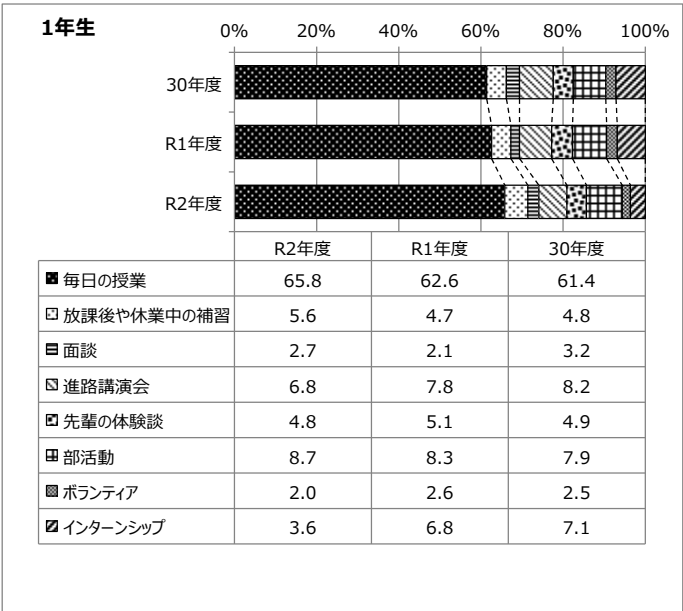
3 学習状況調査について

(1) 学習状況調査の結果

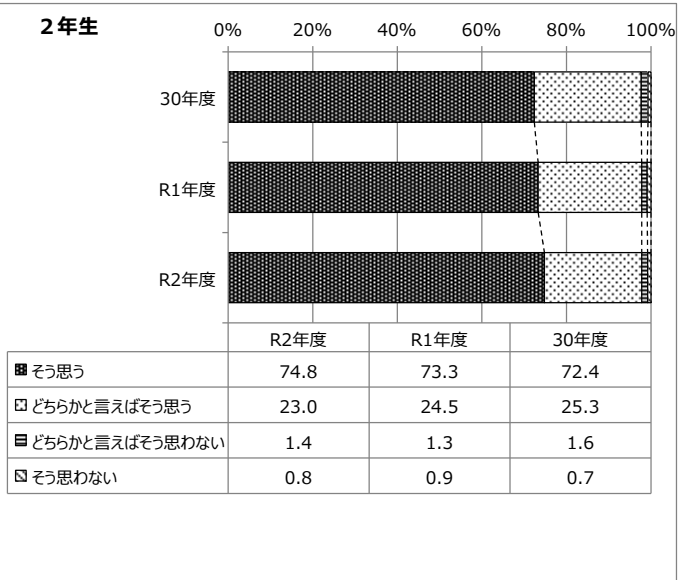
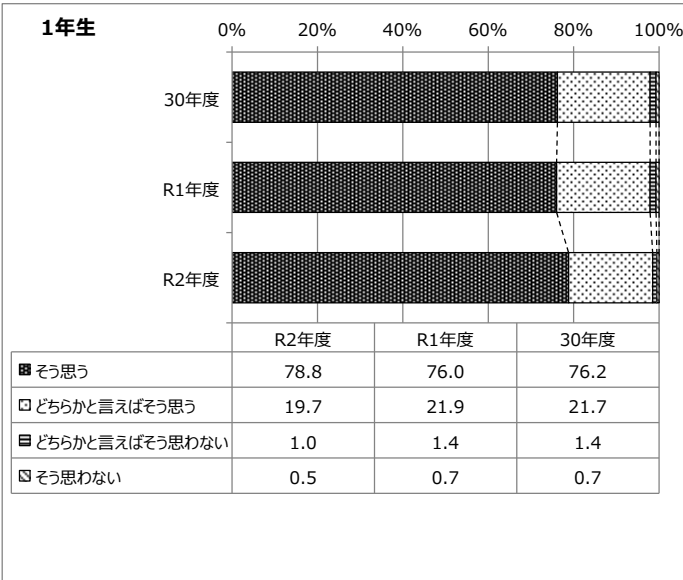
1-1 高校卒業後の進路として、現時点で希望しているのは次のうちどれですか。



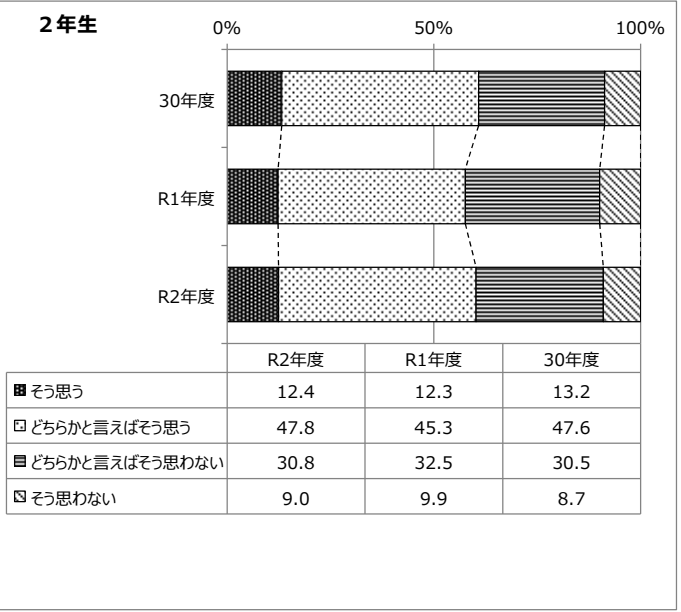
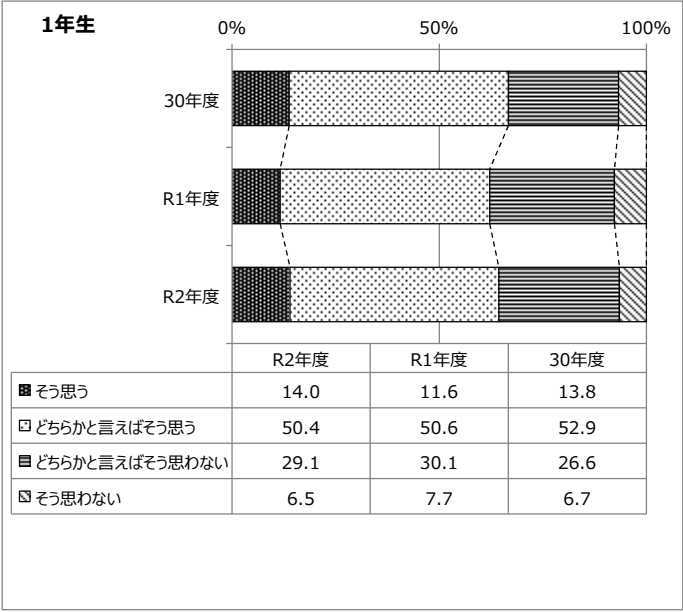
1-2 高校卒業後の進路達成に向けて、現時点で最も役立つと感じているものは次のうちどれですか。



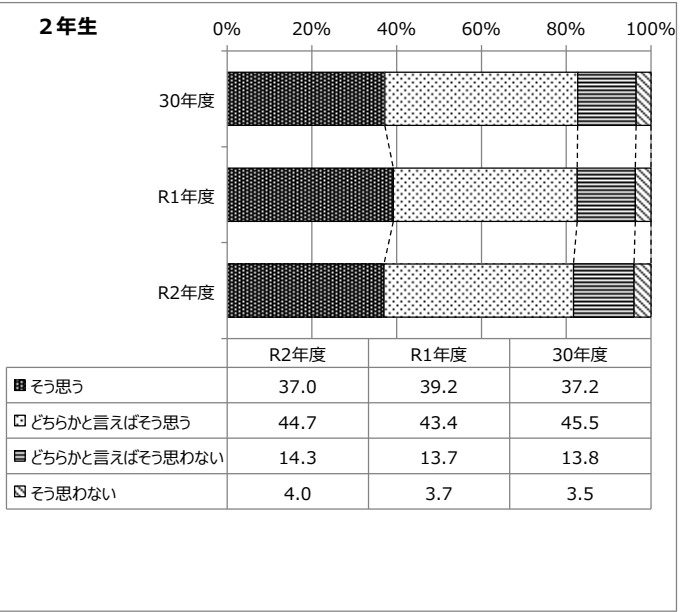
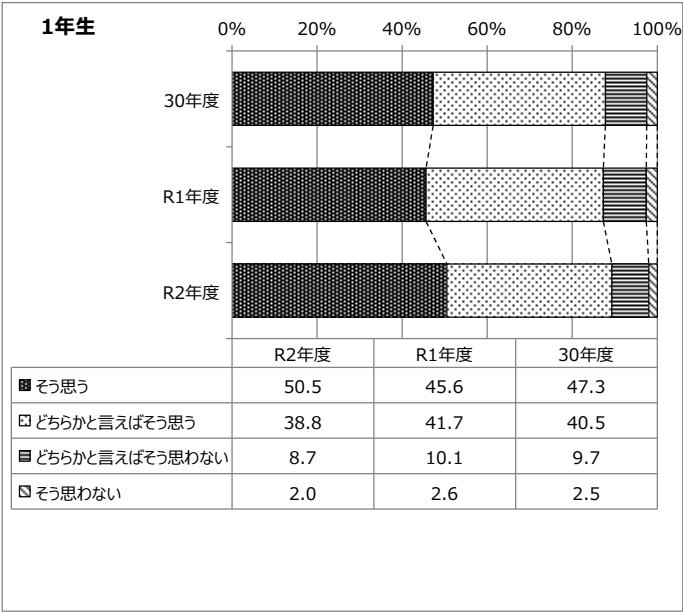
2-1 勉強をすることは大切だと思いますか。



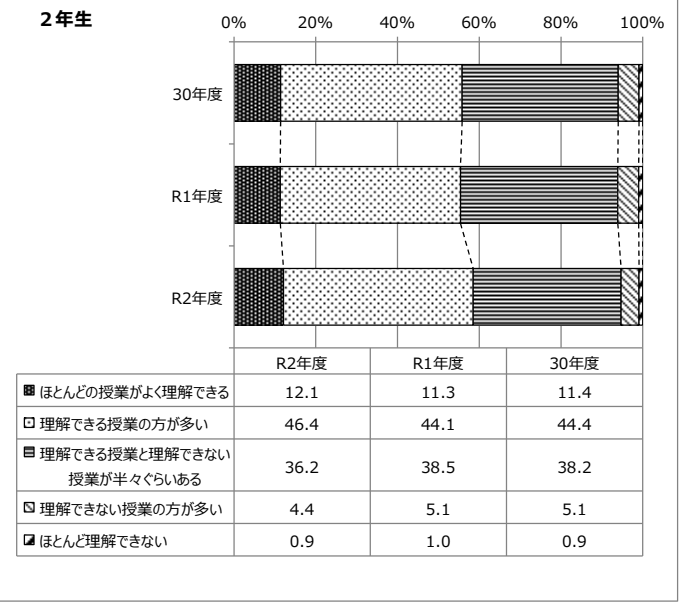
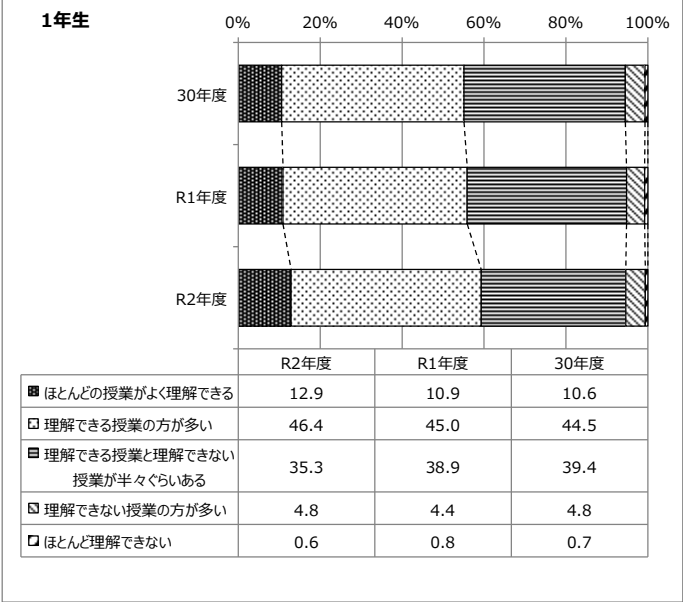
2-2 勉強をすることに対して興味・関心をもって意欲的に取り組んでいますか。



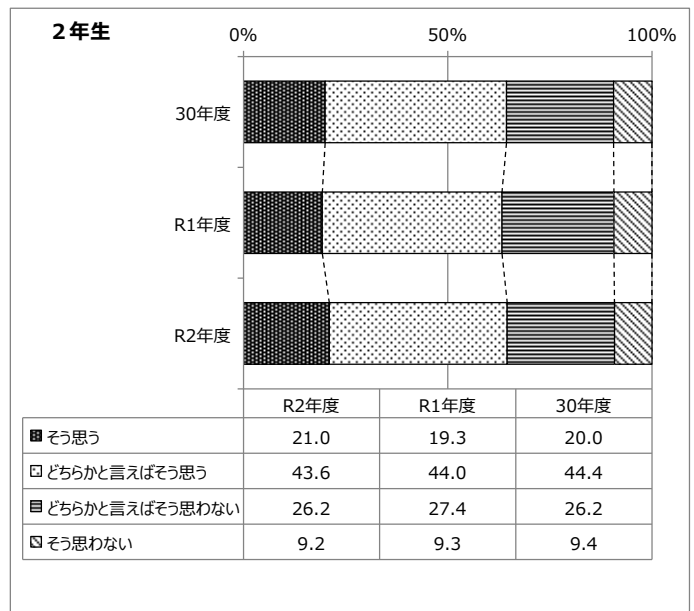
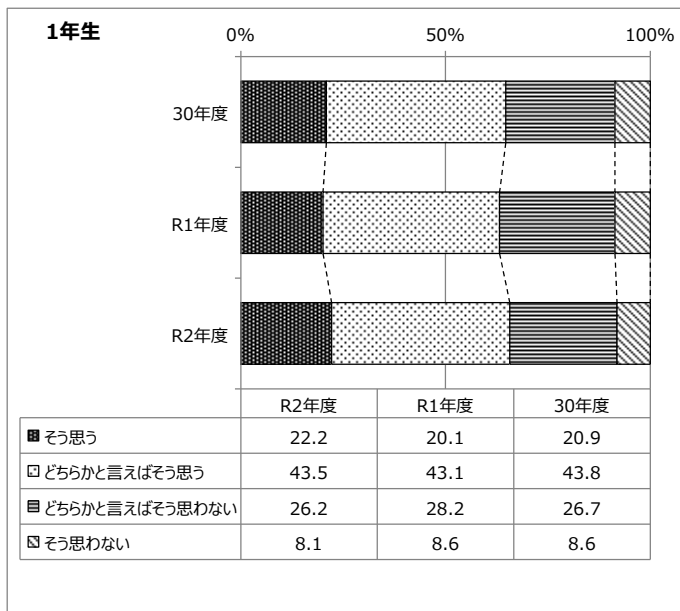
2-3 高校での勉強は、将来社会人になったとき役立つと思いますか。



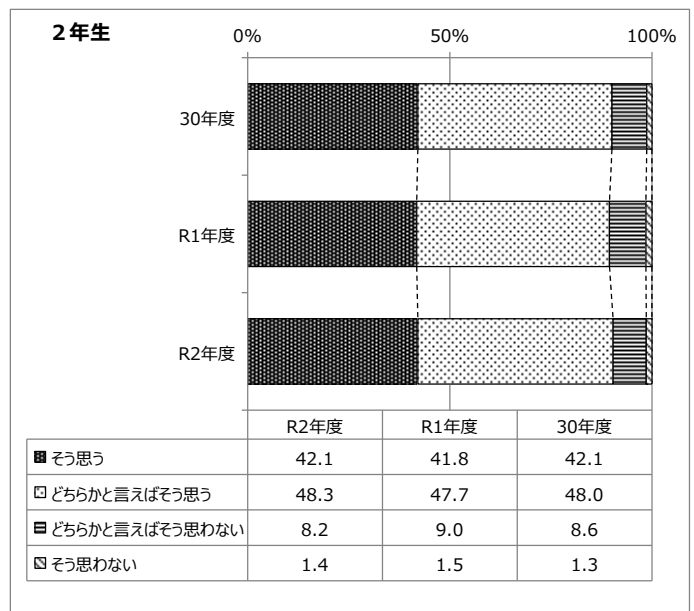
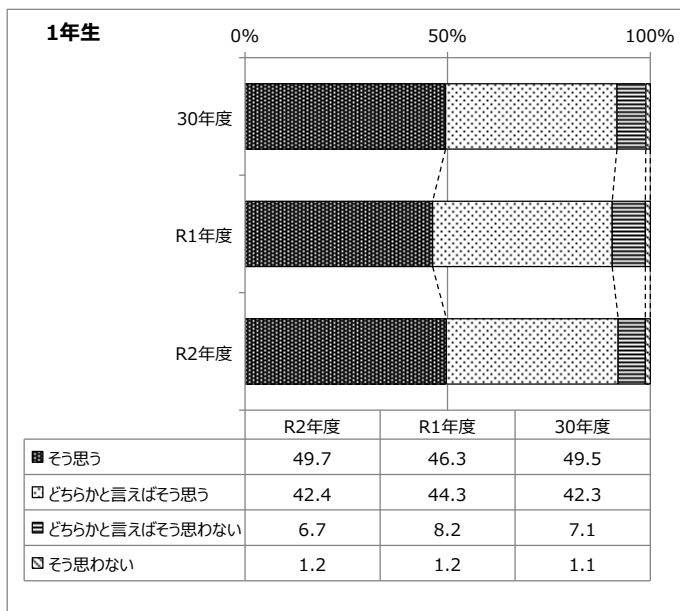
3-1 学校の授業内容をどの程度理解していますか。



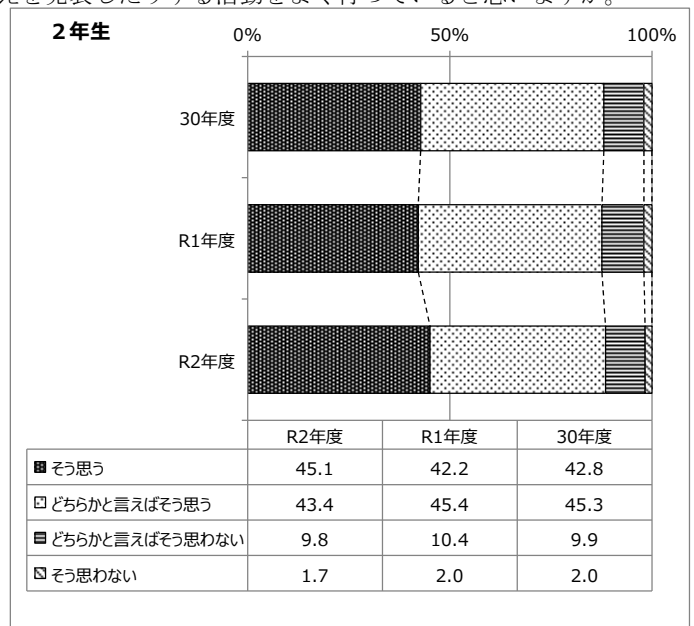
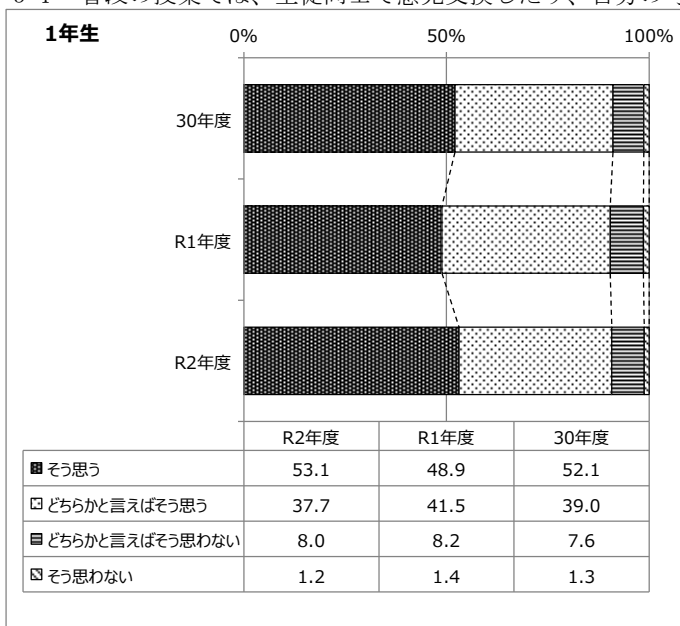
3-2 進学したい大学等や就きたい職業等を意識して授業に臨んでいますか。



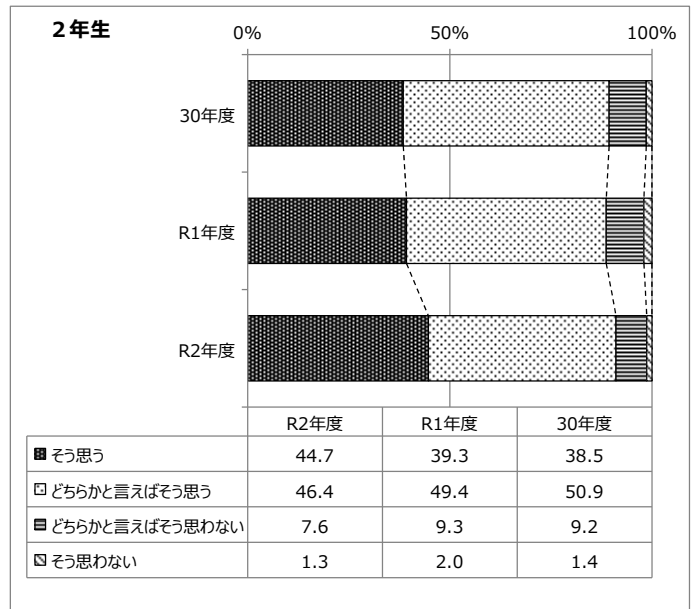
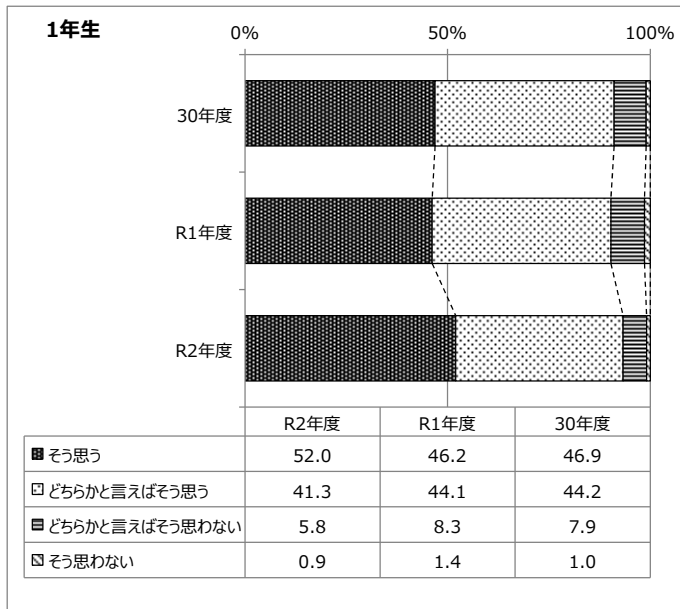
3-3 普段の授業では、生徒に自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



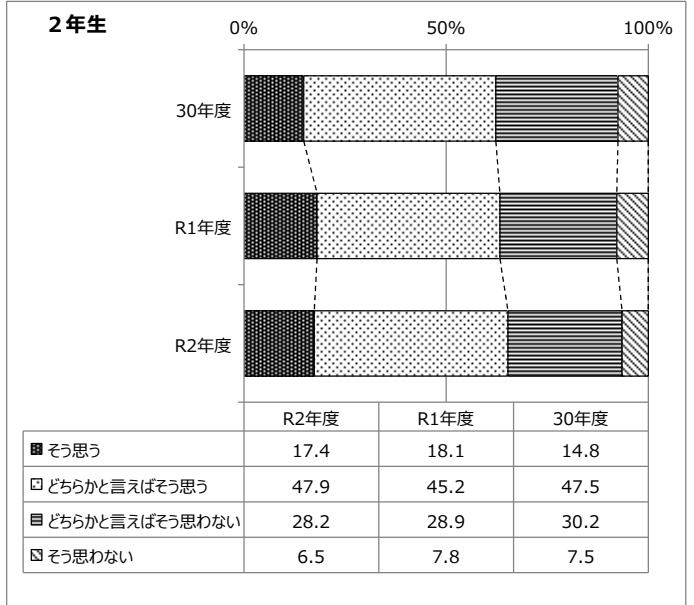
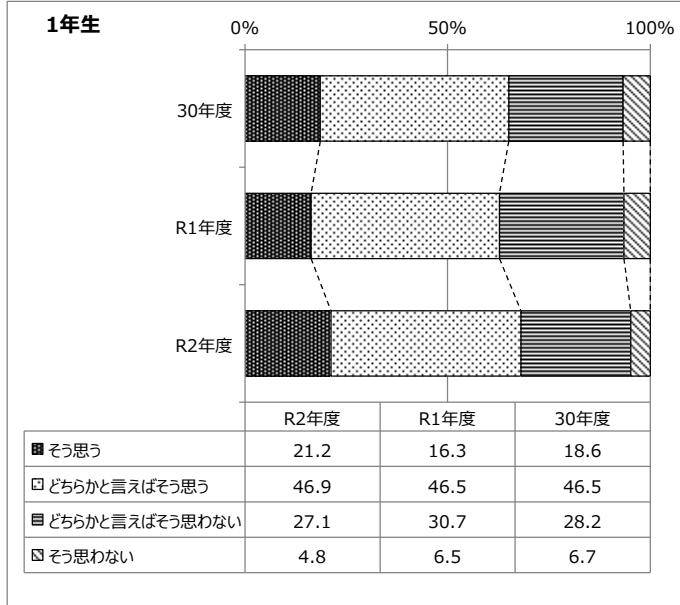
3-4 普段の授業では、生徒同士で意見交換したり、自分の考えを発表したりする活動をよく行っていると思いますか。



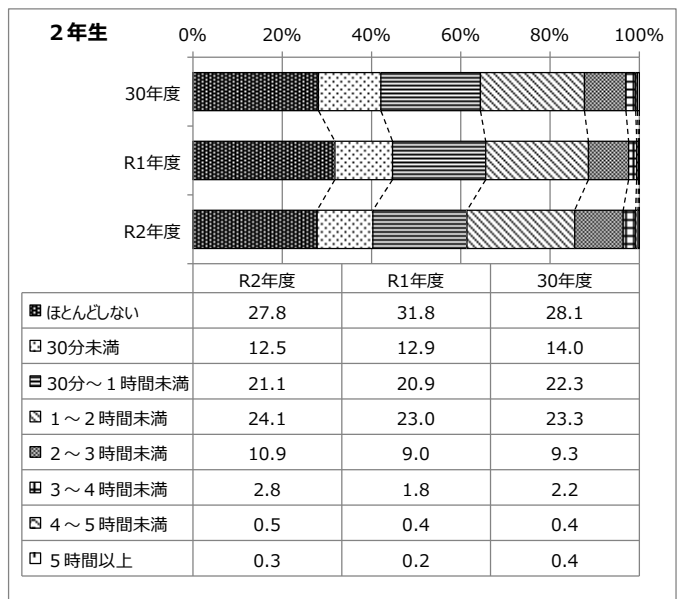
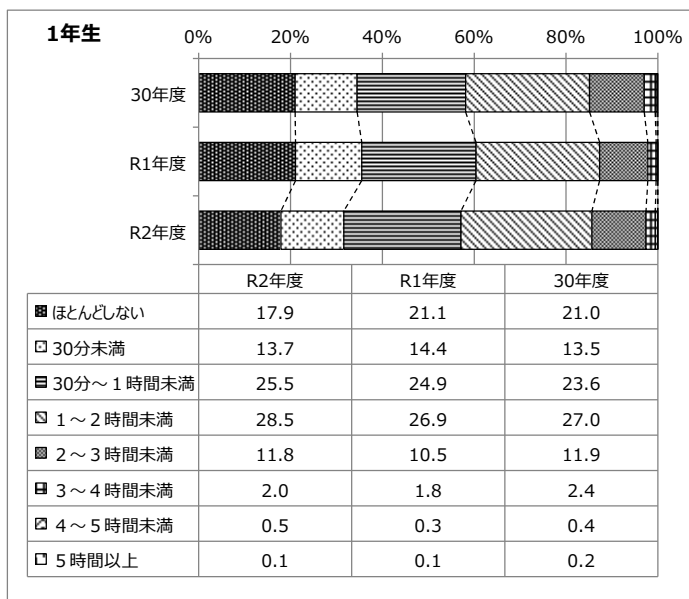
3-5 普段の授業では、学習のねらいや目標をしっかりと提示して授業を行っていると思いますか。



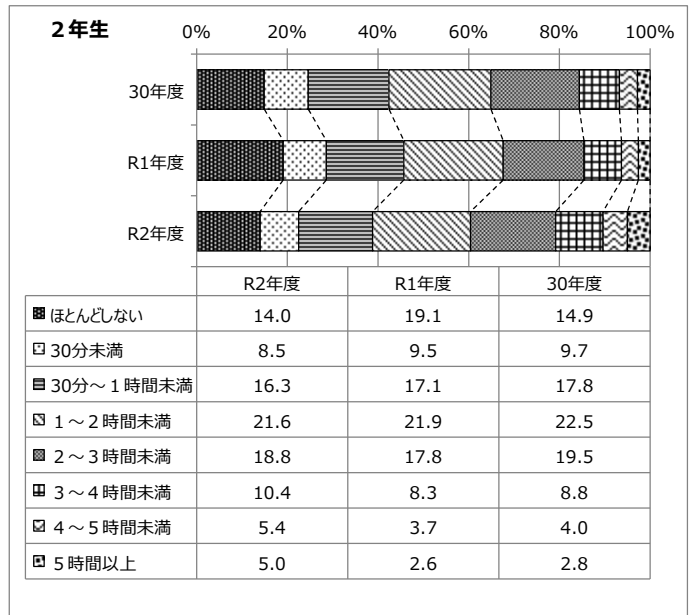
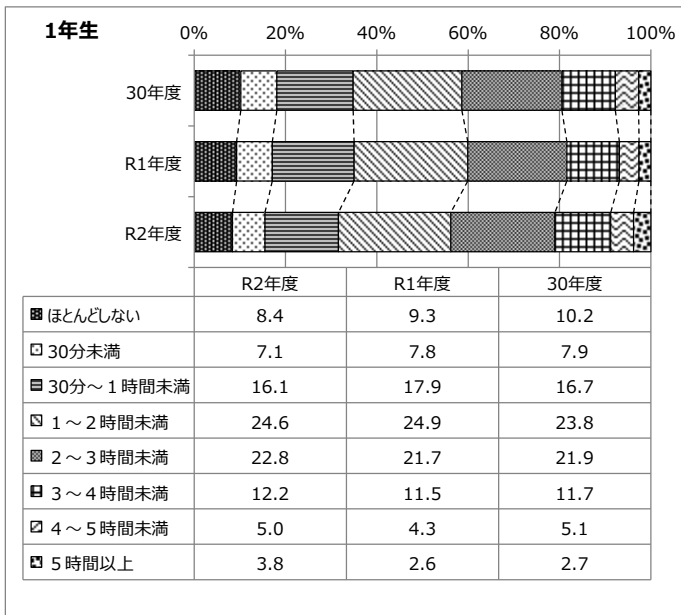
3-6 授業の中で、振り返りをする活動をよく行っていると思いますか。



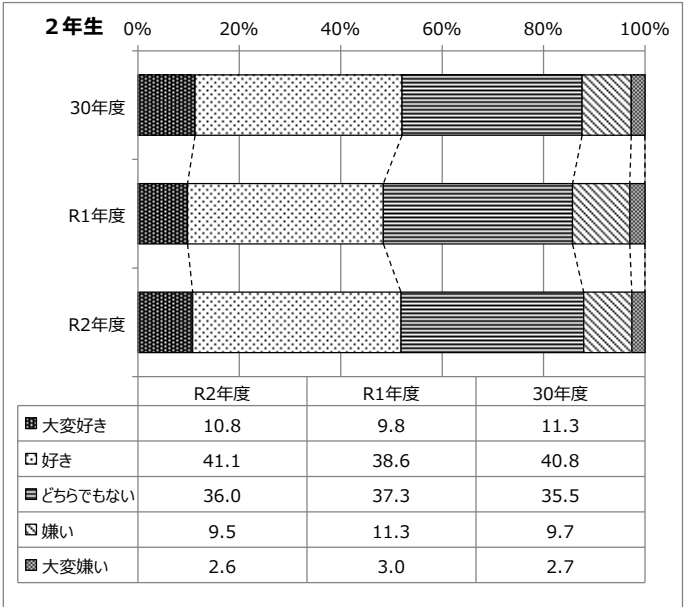
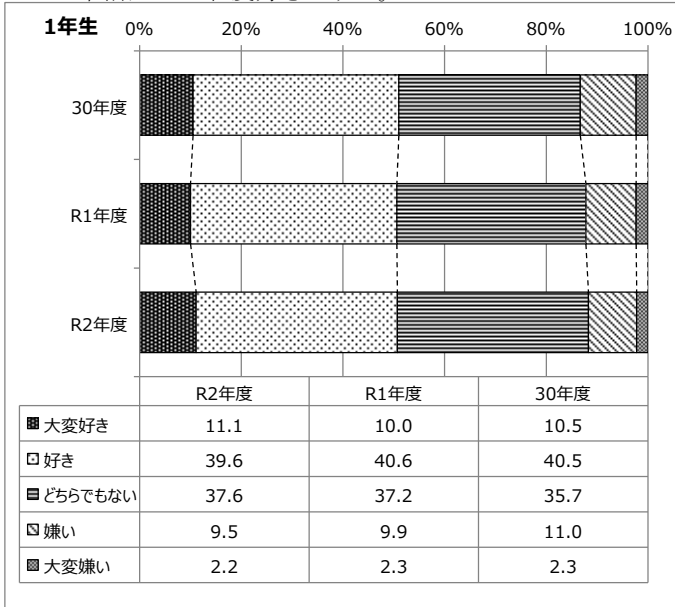
4-1 平日（テスト期間や長期休業中を除く月曜日から金曜日）に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。
(学校の補習・塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含む)



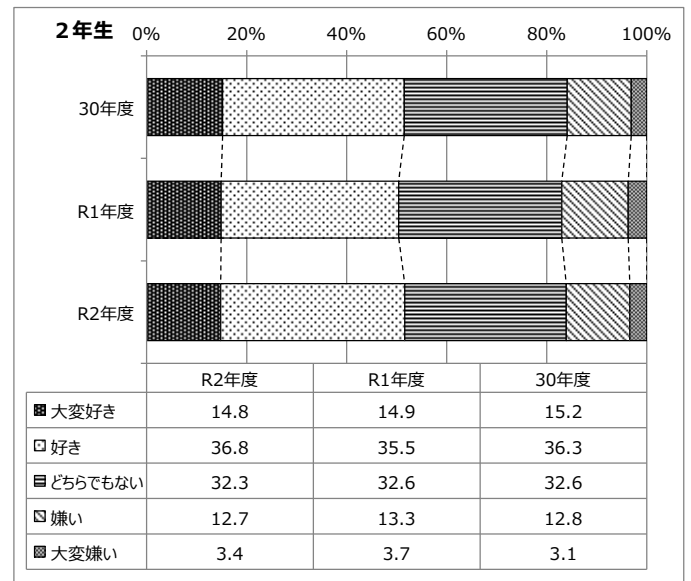
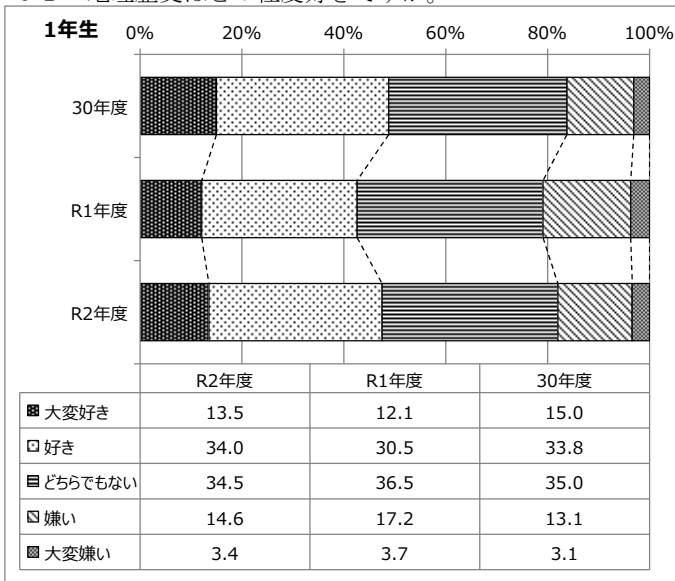
4-2 休日や長期休業中に、どのくらい勉強していますか。(学校の補習・塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間を含む)



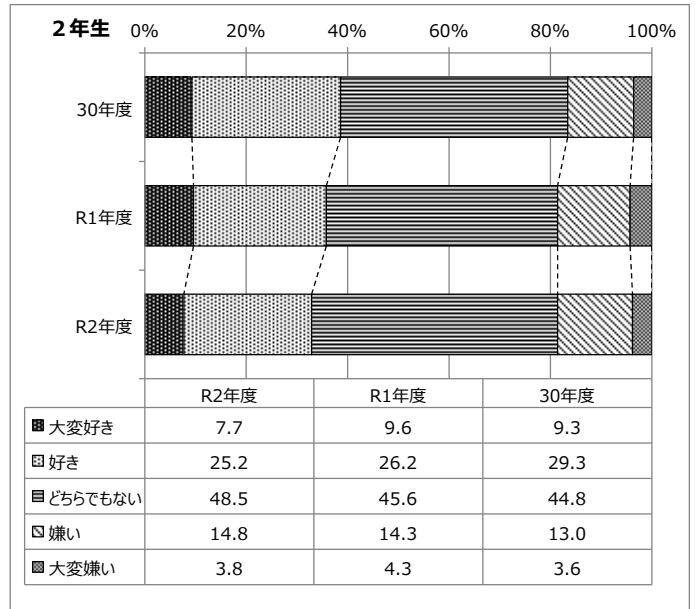
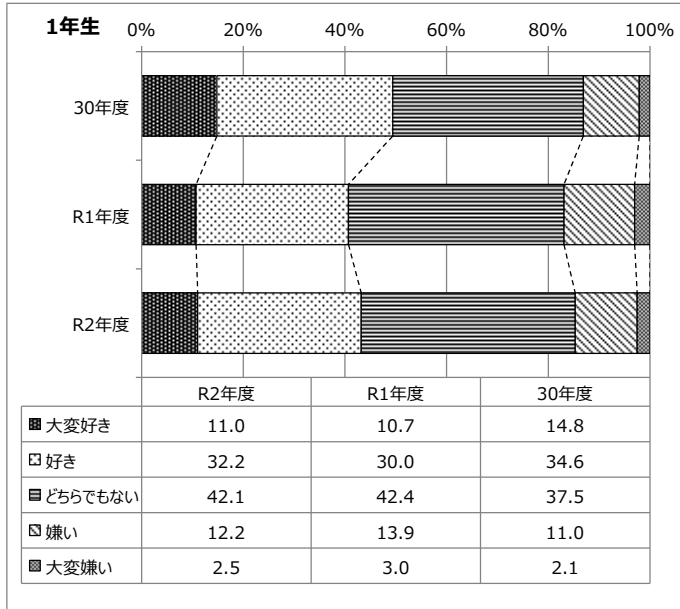
5-1 国語はどの程度好きですか。



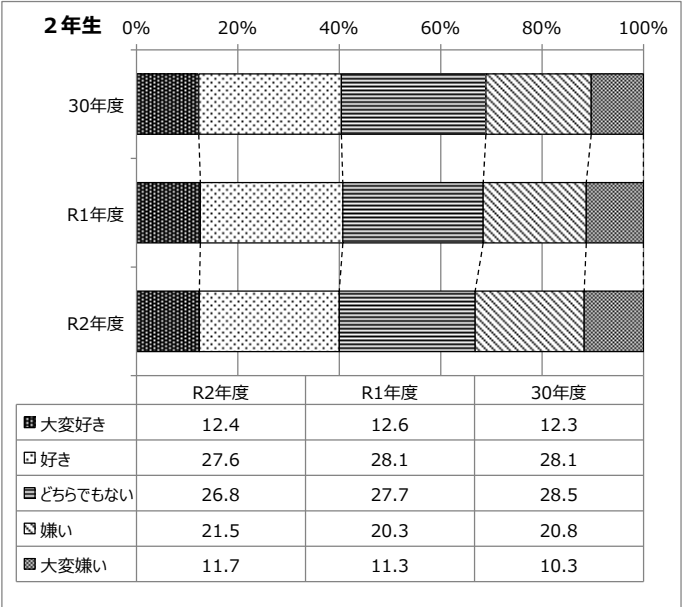
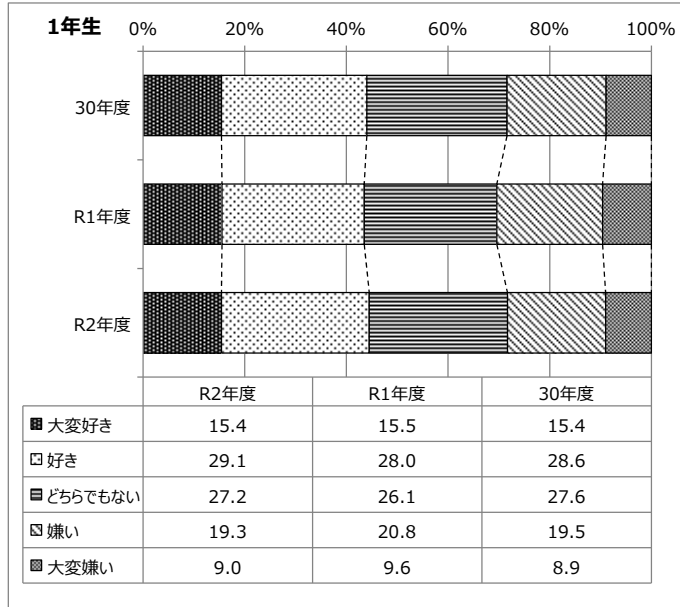
5-2 地理歴史はどの程度好きですか。



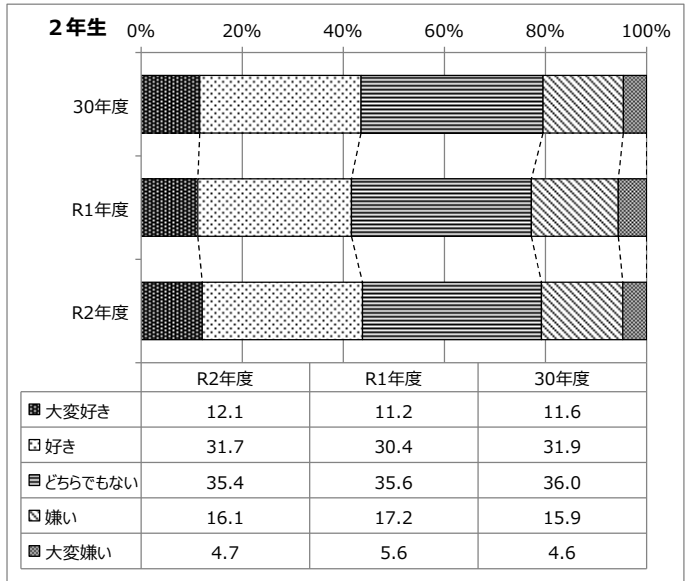
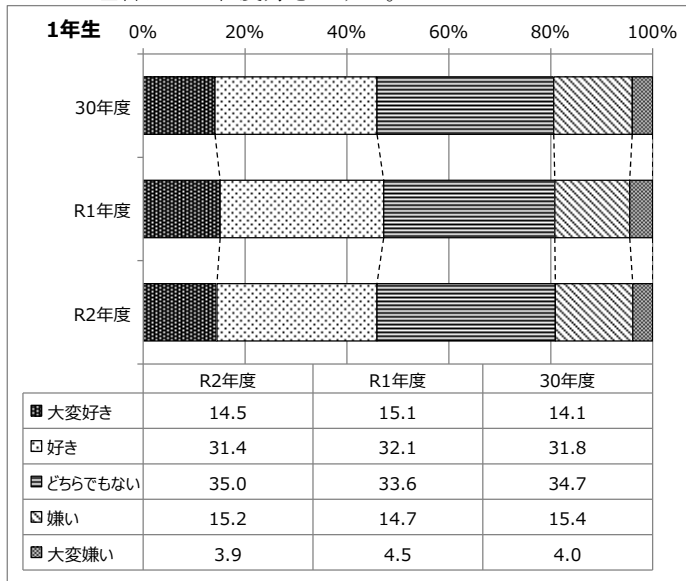
5-3 公民はどの程度好きですか。



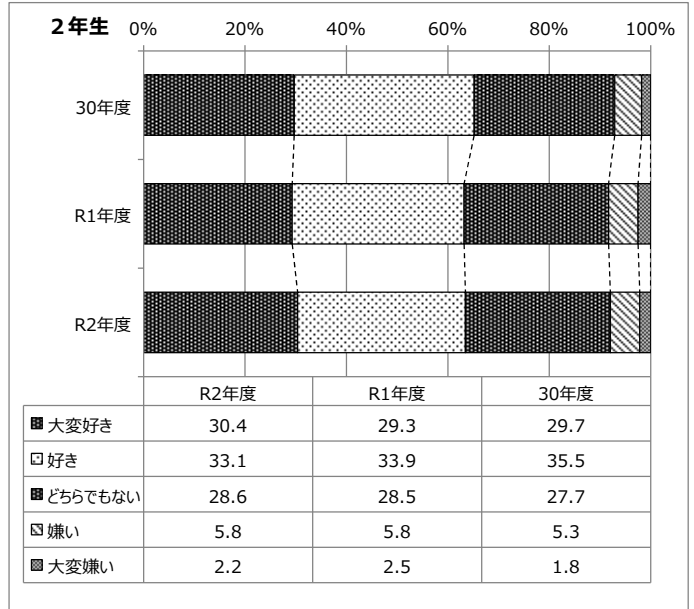
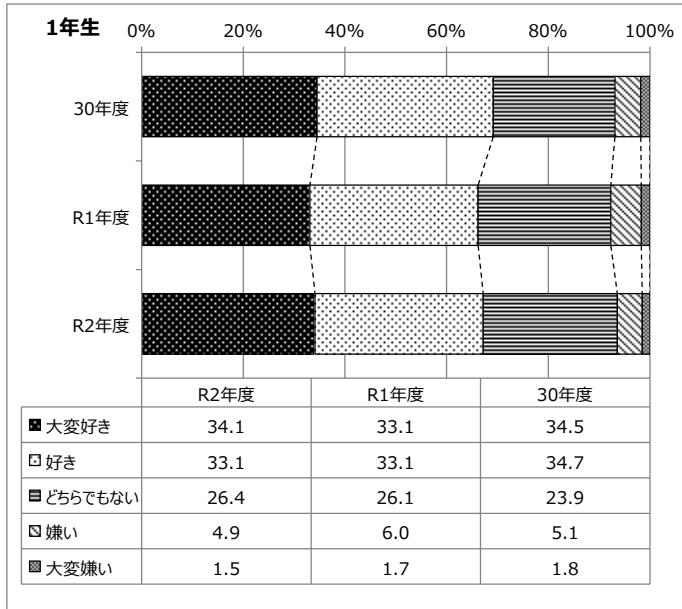
5-4 数学はどの程度好きですか。



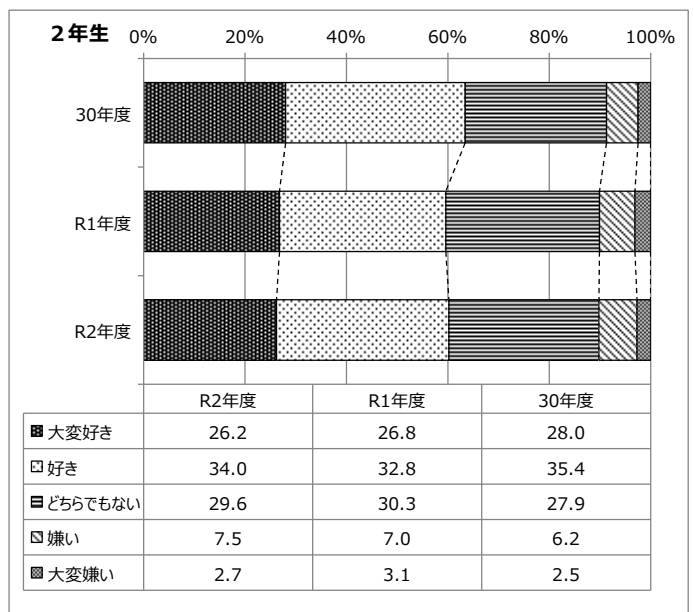
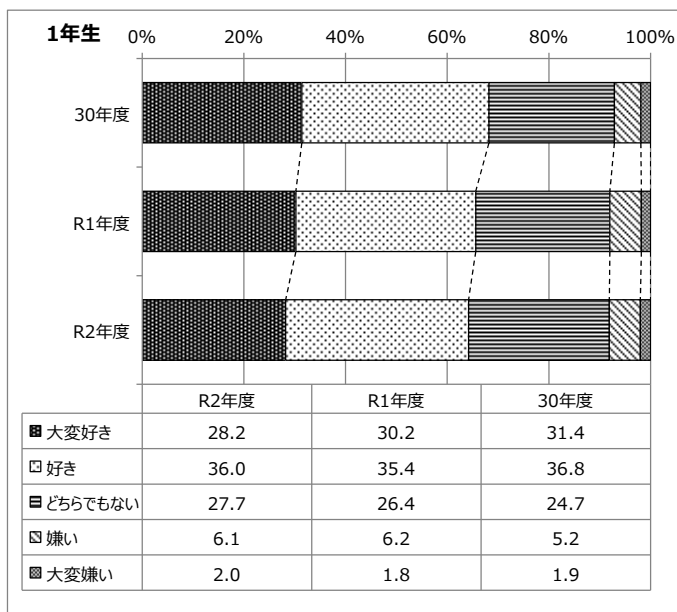
5-5 理科はどの程度好きですか。



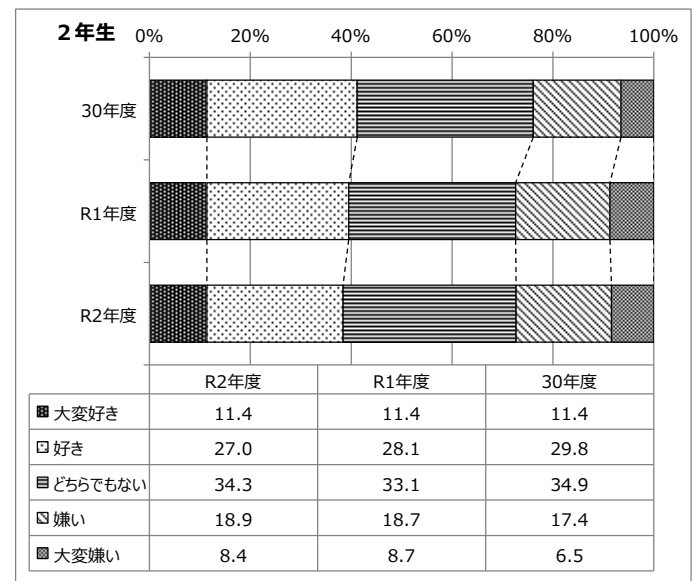
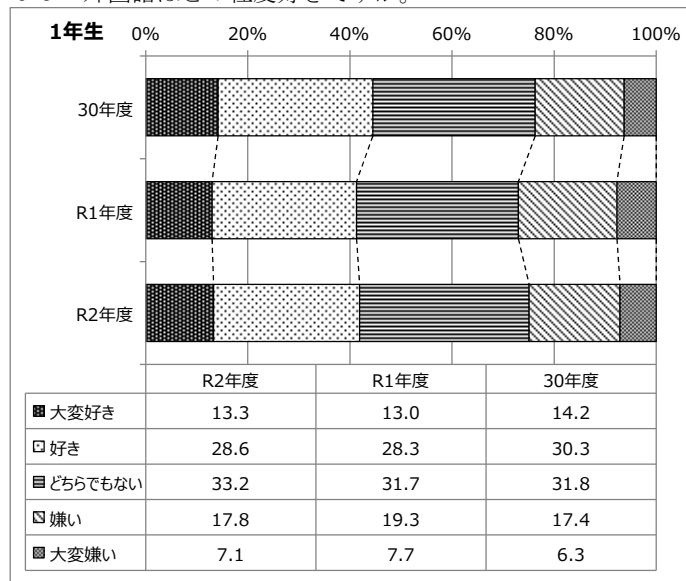
5-6 保健体育はどの程度好きですか。



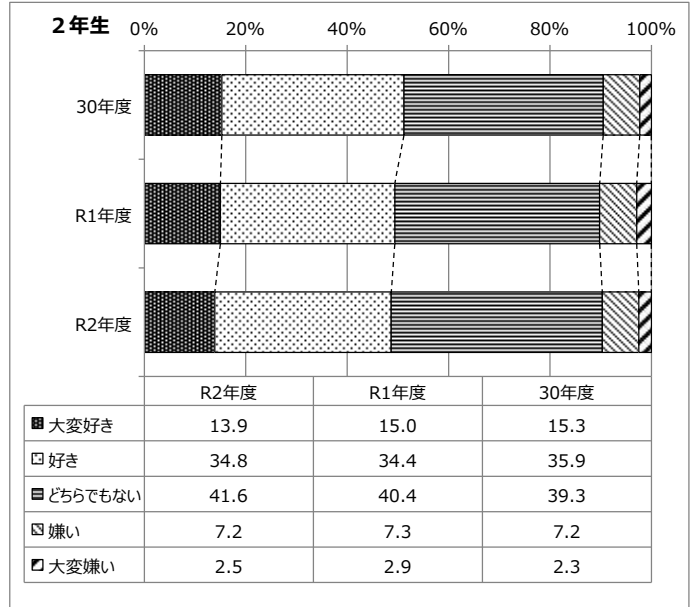
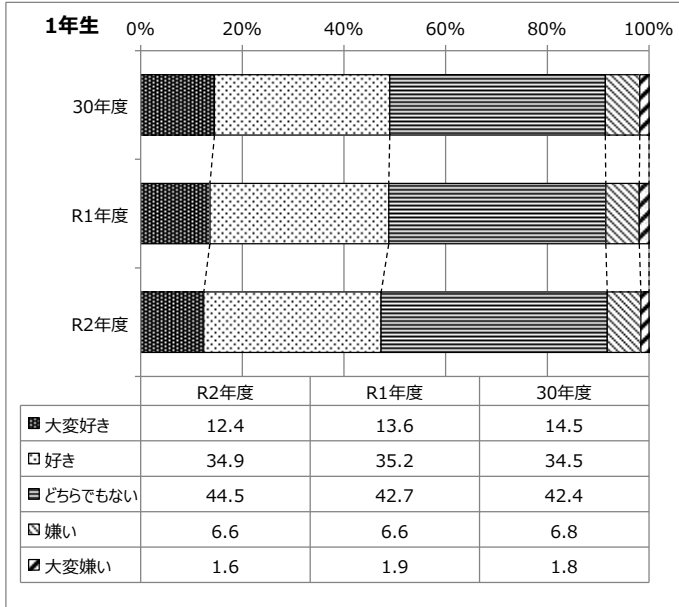
5-7 芸術はどの程度好きですか。



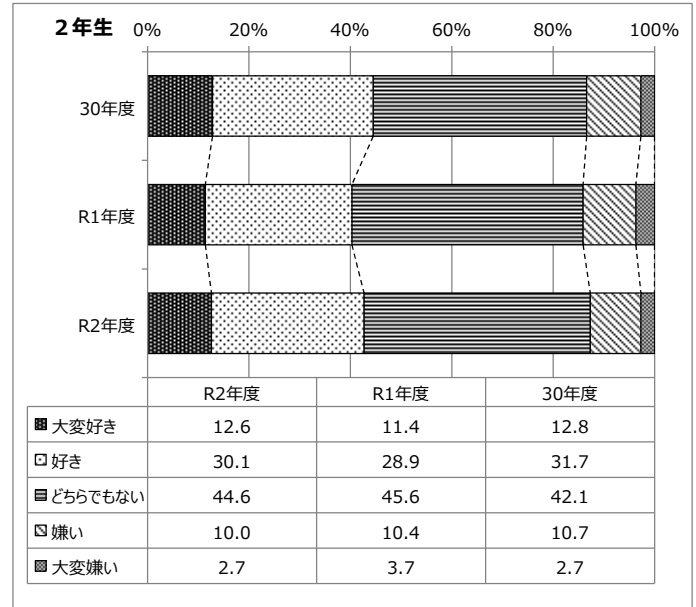
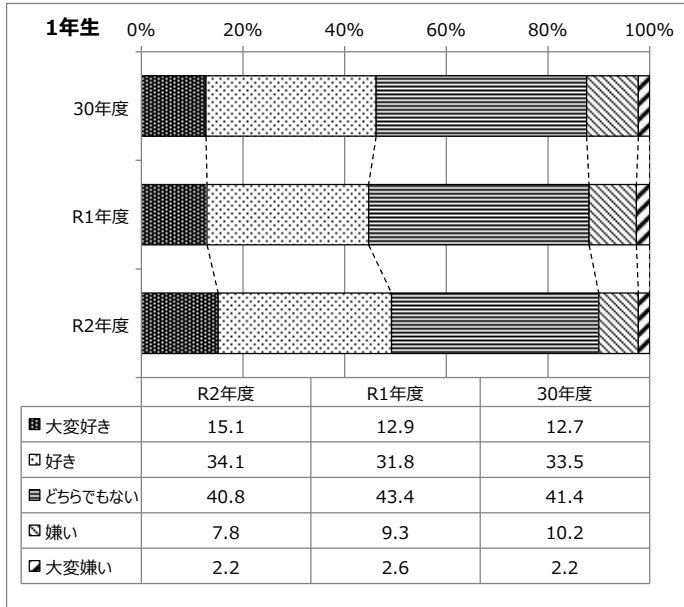
5-8 外国語はどの程度好きですか。



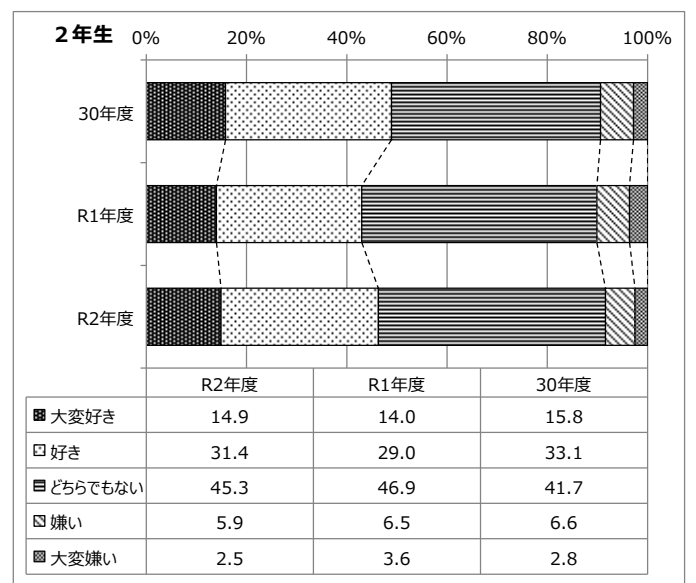
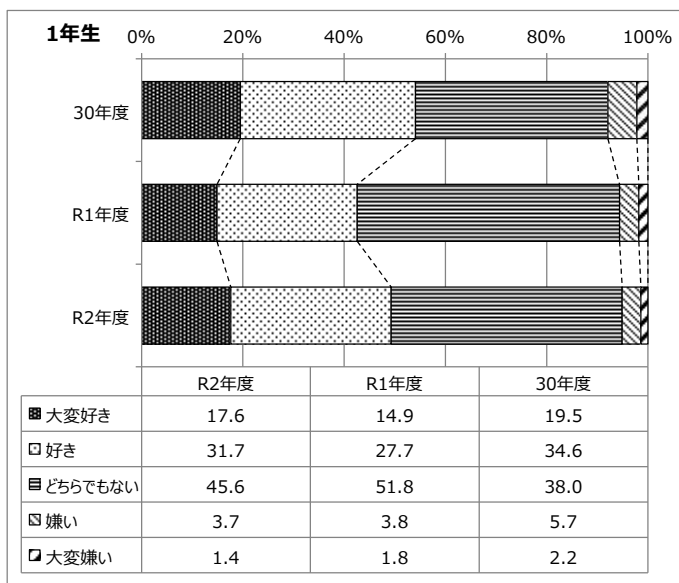
5-9 家庭はどの程度好きですか。



5-10 情報はどの程度好きですか。



5-11 専門教科はどの程度好きですか。



(2) 学習状況調査について

○ 学習全般について

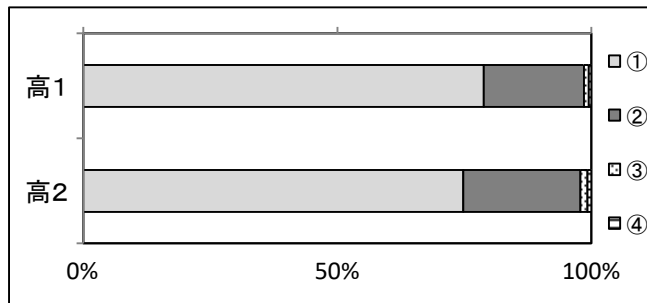
◆勉強をすることは大切だと思いますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない ④そう思わない

	①	②	③	④
高1	78.8%	19.7%	1.0%	0.5%
高2	74.8%	23.0%	1.4%	0.8%

肯定的な回答の割合は、高1で98.5%、高2で97.8%であり、ほとんどの生徒は勉強することの重要性を認識している。

各学校において、目指す生徒像の育成に向けて、生徒に自ら学ぶ意義を実感させる取組をより一層充実させていく必要がある。

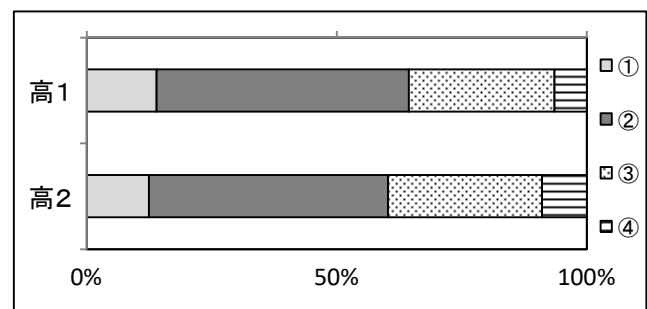


◆勉強をすることに対して興味・関心をもって意欲的に取り組んでいますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない ④そう思わない

	①	②	③	④
高1	14.0%	50.4%	29.1%	6.5%
高2	12.4%	47.8%	30.8%	9.0%

肯定的な回答の割合は、高1で64.4%、高2で60.2%である。一方で、各学年とも否定的な回答が40%程度あり、生徒一人一人の学習状況を把握し、生徒の学習意欲を高められるような授業改善に取り組む必要がある。



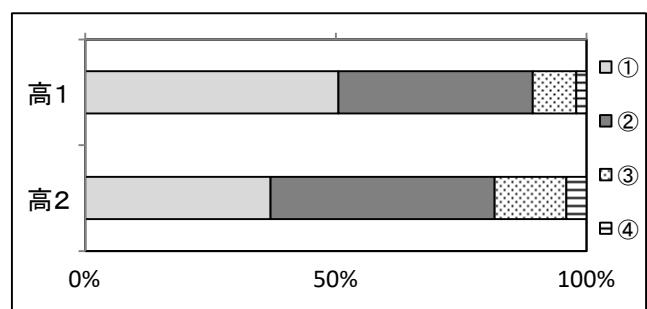
◆高校での勉強は、将来社会人になったときに役立つと思いますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない ④そう思わない

	①	②	③	④
高1	50.5%	38.8%	8.7%	2.0%
高2	37.0%	44.7%	14.3%	4.0%

肯定的な回答の割合は、高1で89.3%、高2で81.7%となっており、各校におけるキャリア教育の取組の成果が表れている。

今後も、育成したい資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメントを実践し、教育活動全体を通して高校3年間の学びと社会との関わりについて考えさせる指導の充実を図る必要がある。

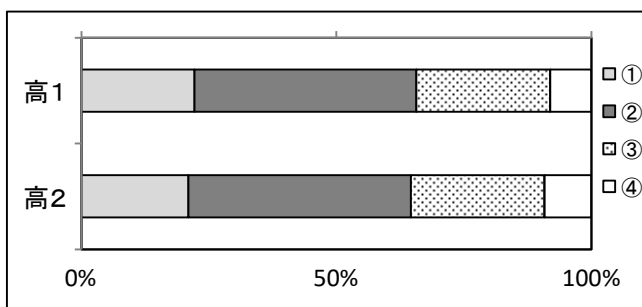


○ 授業について

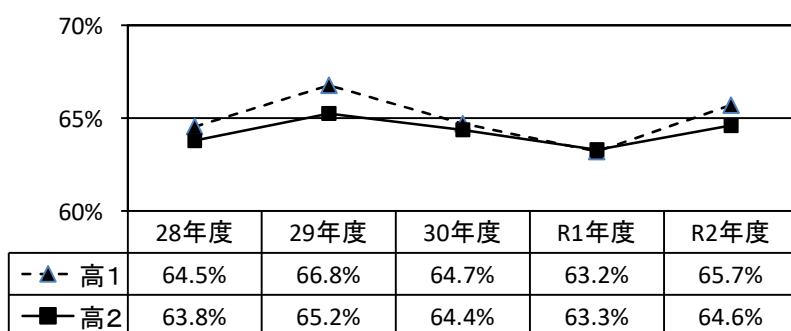
◆進学したい大学等や就きたい職業等を意識して授業に臨んでいますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない ④そう思わない

	①	②	③	④
高1	22.2%	43.5%	26.2%	8.1%
高2	21.0%	43.6%	26.2%	9.2%



「そうしている」「どちらかと言えばそうしている」の割合(経年変化)



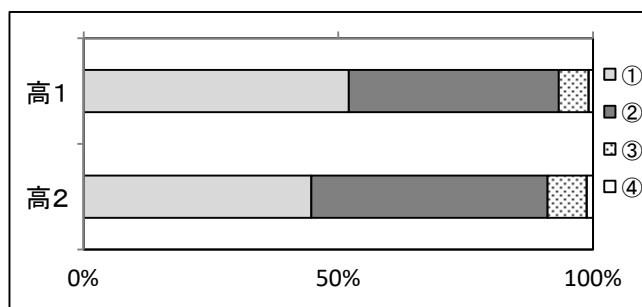
肯定的な回答の割合は各学年とも65%前後で推移している。

キャリア教育は日々の授業においても推進されるものであり、組織的な授業改善の取組を充実させ、生徒が生涯にわたって学び続ける態度を育成していく必要がある。

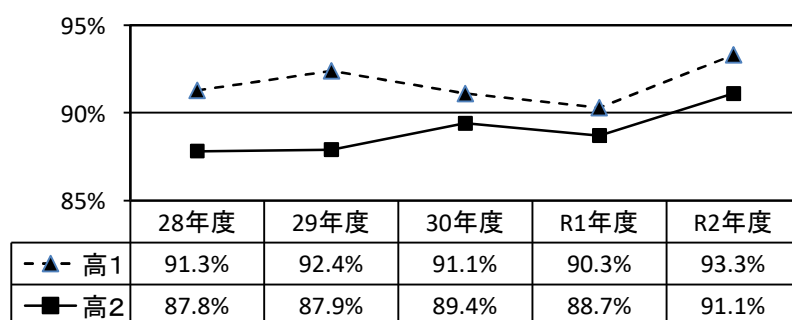
◆普段の授業では、学習のねらいや目標をしっかりと提示して授業を行っていると思いますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない ④そう思わない

	①	②	③	④
高1	52.0%	41.3%	5.8%	0.9%
高2	44.7%	46.4%	7.6%	1.3%



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合(経年変化)



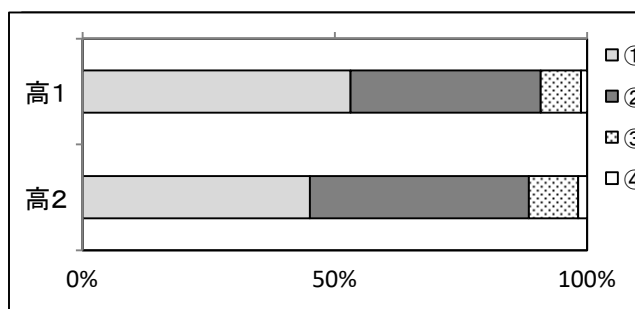
肯定的な回答の割合は高1で93.3%、高2で91.1%と各学年とも90%を超えており、授業において学習のねらいや目標の提示が定着していることを示している。

今後も、単元や授業で育成すべき資質・能力を明確にした学習のねらい等を設定し、生徒に見通しをもたせた上で学習に取り組ませていくことが重要である。

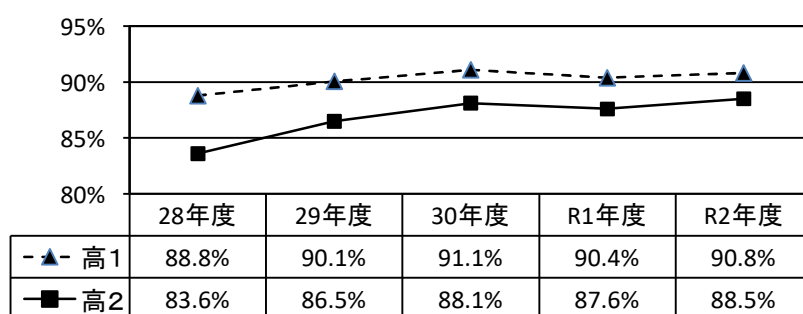
◆普段の授業では、生徒同士で意見交換したり、自分の考えを発表したりする活動をよく行っていると思いますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない
④そう思わない

	①	②	③	④
高1	53.1%	37.7%	8.0%	1.2%
高2	45.1%	43.4%	9.8%	1.7%



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合(経年変化)



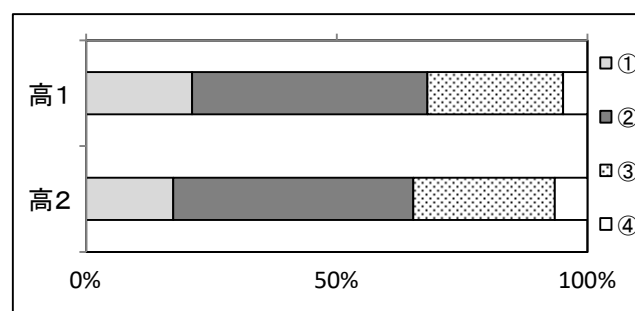
肯定的な回答の割合は高1で90.8%、高2で88.5%と各学年とも高く、協働的な学習活動を重視した授業が定着していることを示している。

今後は生徒1人1台端末等のICT機器を活用し、生徒が互いに高め合う学習活動の充実を図ることにより、思考力・判断力・表現力等を育成していく必要がある。

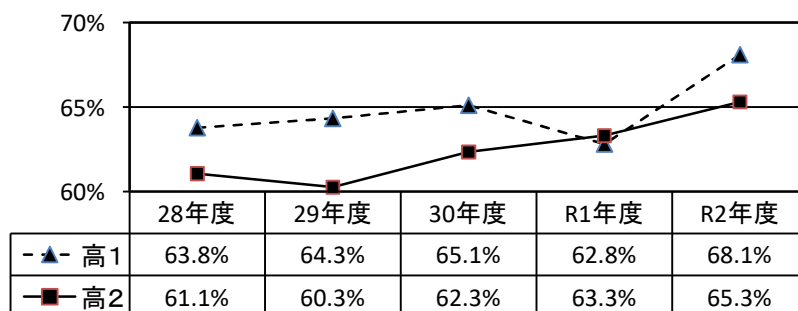
◆普段の授業で、振り返り活動をよく行っていると思いますか。

- ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③どちらかと言えばそう思わない
④そう思わない

	①	②	③	④
高1	21.2%	46.9%	27.1%	4.8%
高2	17.4%	47.9%	28.2%	6.5%



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合(経年変化)



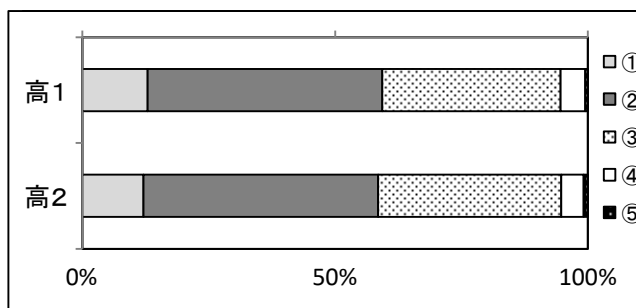
肯定的な回答の割合は高1で68.1%、高2で65.3%と各学年とも昨年度に比べて上昇しているものの、決して高い数字とは言えない。

授業の振り返りは、生徒に学習で得た知識や考え方を整理させ、自らの変容を認識させるという点で重要であり、引き続き振り返り活動の一層の充実を図っていく必要がある。

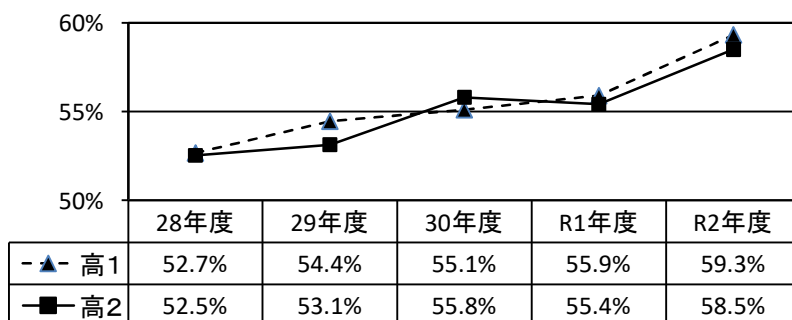
◆学校の授業内容をどの程度理解していますか。

①ほとんどの授業が理解できる ②理解できる授業の方が多い ③理解できる授業と理解できない授業が半々くらいである ④理解できない授業の方が多い ⑤ほとんど理解できない

	①	②	③	④	⑤
高1	12.9%	46.4%	35.3%	4.8%	0.6%
高2	12.1%	46.4%	36.2%	4.4%	0.9%



「ほとんど理解できる」「理解できる授業の方が多い」の割合(経年変化)



「ほとんど理解できる」「理解できるの方が多い」の割合は、各学年とも昨年度から上昇し、各学校における取組の成果が表れているものの、決して高い数字とは言えない。

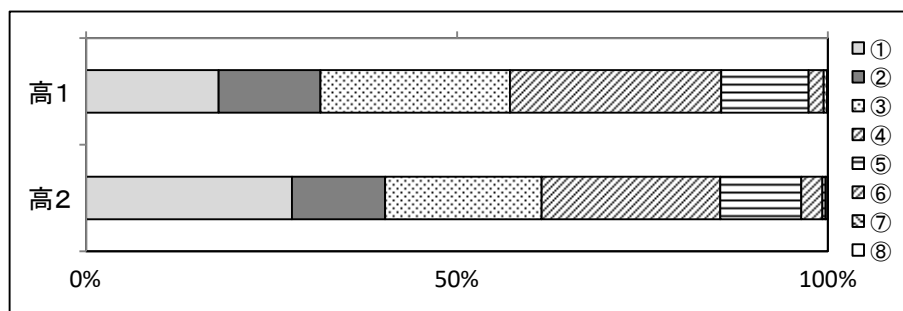
今後も引き続き、生徒の個性や能力に応じたきめ細かな学習指導の取組をより一層充実させる必要がある。

○ 家庭学習について

◆平日に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。

①ほとんどしない ②30分未満 ③30分～1時間未満 ④1～2時間未満 ⑤2～3時間未満 ⑥3～4時間未満 ⑦4～5時間未満 ⑧5時間以上

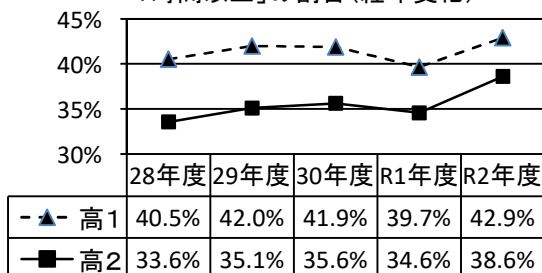
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
高1	17.9%	13.7%	25.5%	28.5%	11.8%	2.0%	0.5%	0.1%
高2	27.8%	12.5%	21.1%	24.1%	10.9%	2.8%	0.5%	0.3%



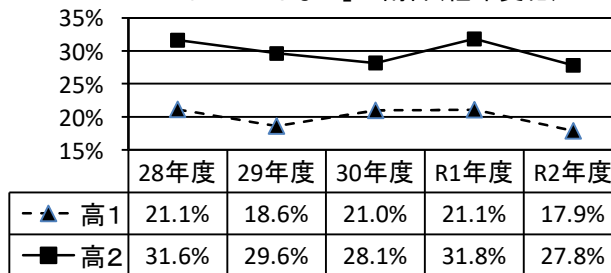
平日の学習時間が「1時間以上」の割合は増加し、高1で42.9%、高2で38.6%と改善傾向にはあるものの、決して高い数字とは言えない。

「ほとんどしない」の割合は高1で17.9%、高2で27.8%であり、生徒が家庭学習に主体的に取り組む態度を育成するとともに、授業と家庭学習が相乗効果を生むような授業改善の取組を充実させる必要がある。

「1時間以上」の割合(経年変化)



「ほとんどしない」の割合(経年変化)



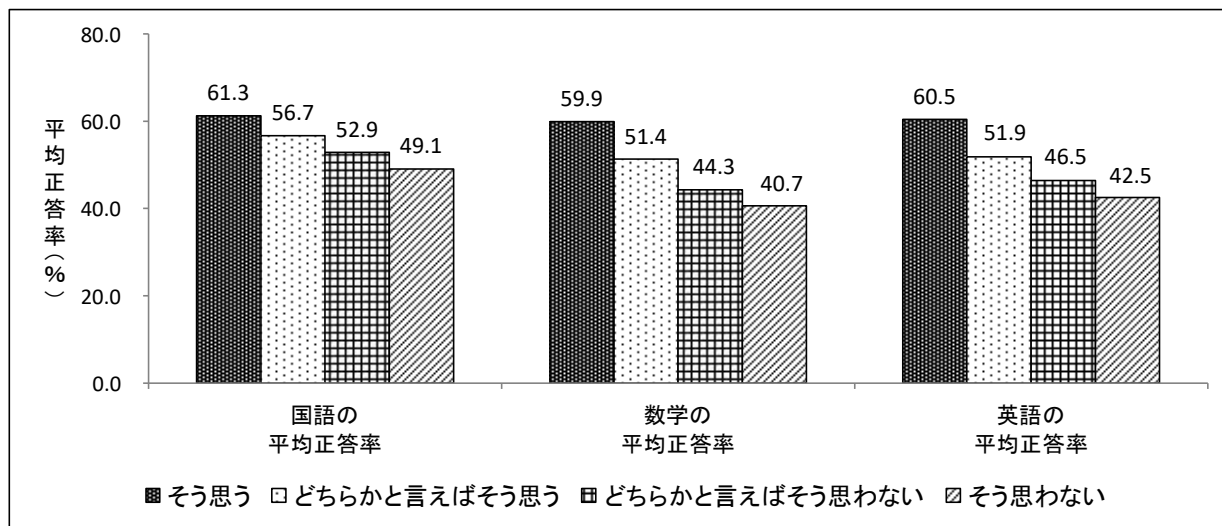
4 学力調査と学習状況調査のクロス分析について

- (1) 平均正答率と「勉強をすることに対して興味・関心をもって意欲的に取り組んでいると思いますか」の質問とのクロス分析

	国語の 平均正答率	数学の 平均正答率	英語の 平均正答率
そう思う	61.3	59.9	60.5
どちらかと言えばそう思う	56.7	51.4	51.9
どちらかと言えばそう思わない	52.9	44.3	46.5
そう思わない	49.1	40.7	42.5

勉強することに対して興味・関心をもって意欲的に取り組んでいる生徒の平均正答率は、そうでない生徒に対して、高い傾向が見られる。

生徒に学ぶことの意義を実感させ、興味・関心を高める指導を充実させるとともに、生徒が自らの興味・関心を基に課題を設定し、課題の解決に向けて主体的に学習に取り組む活動の充実を図る必要がある。

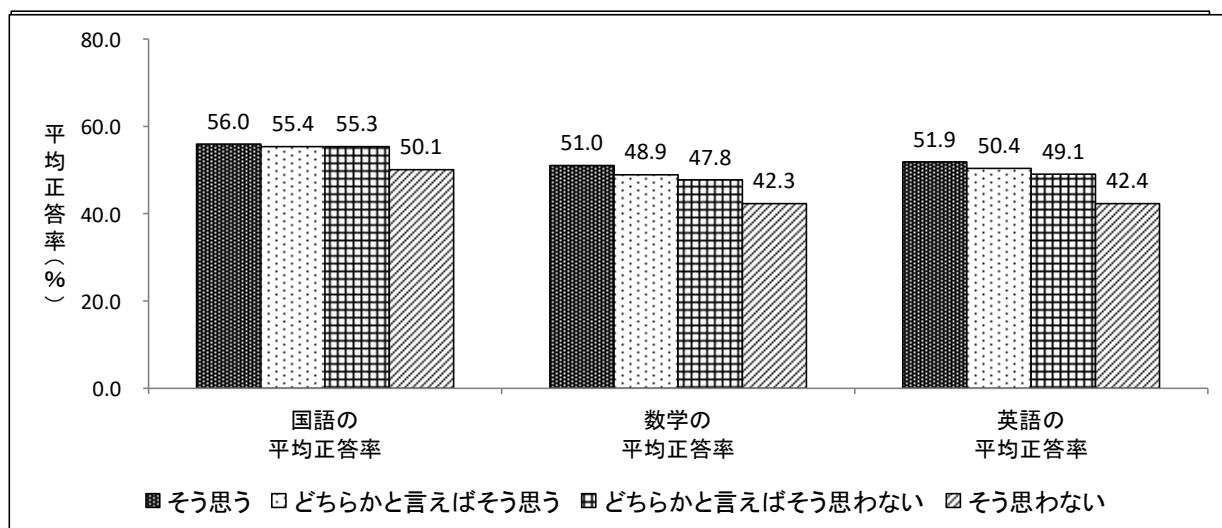


- (2) 平均正答率と「進学したい大学等や就きたい職業等を意識して授業に臨んでいますか」の質問とのクロス分析

	国語の 平均正答率	数学の 平均正答率	英語の 平均正答率
そう思う	56.0	51.0	51.9
どちらかと言えばそう思う	55.4	48.9	50.4
どちらかと言えばそう思わない	55.3	47.8	49.1
そう思わない	50.1	42.3	42.4

自分の進路を意識して授業に臨んでいる生徒の平均正答率は、そうでない生徒に対して、高い傾向が見られる。

進路目標が明確である生徒ほど、授業に意欲的に臨んでいることを示しており、学校の学習と社会を関連付けた授業改善の取組を充実させる必要がある。

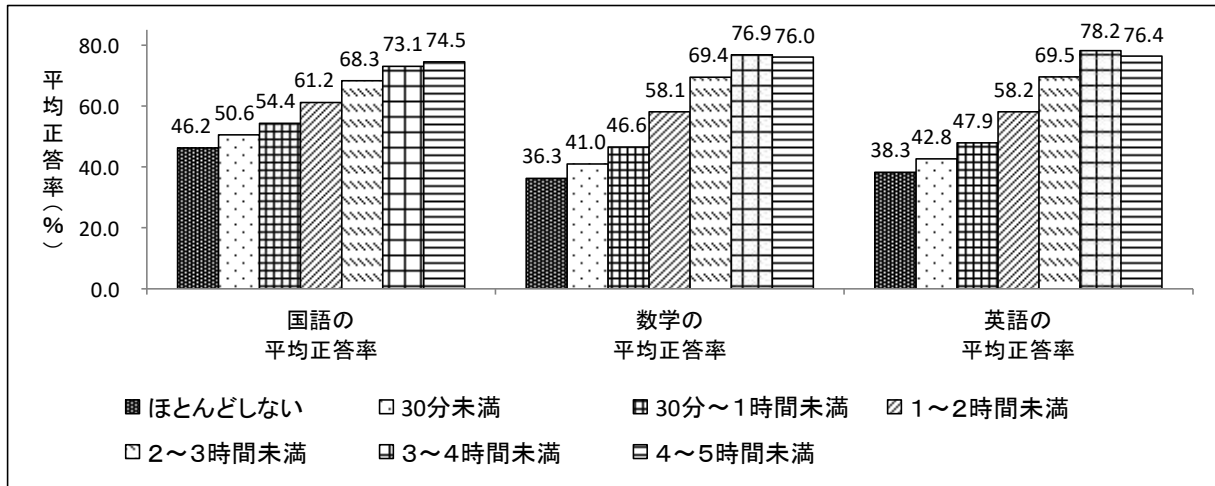


(3) 平均正答率と「平日に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか」の質問とのクロス分析

	国語の 平均正答率	数学の 平均正答率	英語の 平均正答率
ほとんどしない	46.2	36.3	38.3
30分未満	50.6	41.0	42.8
30分～1時間未満	54.4	46.6	47.9
1～2時間未満	61.2	58.1	58.2
2～3時間未満	68.3	69.4	69.5
3～4時間未満	73.1	76.9	78.2
4～5時間未満	74.5	76.0	76.4

学校の授業以外の学習時間が長いほど、平均正答率が高くなる傾向が見られる。

授業をはじめ、教育活動全体を通して学力向上に取り組んでいくとともに、学校と家庭の一層の連携を図り、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成し、生徒が学習の見通しを立てて予習をしたり、学習した内容を振り返って復習したりする学習習慣を身に付けさせる必要がある。



(4) 平均正答率と「普段の授業では、生徒同士で意見交換したり、自分の考えを発表したりする活動をよく行っていると思いますか」の質問とのクロス分析

	国語の 平均正答率	数学の 平均正答率	英語の 平均正答率
そう思う	58.4	53.8	54.7
どちらかと言えばそう思う	54.0	47.2	48.2
どちらかと言えばそう思わない	49.4	40.2	42.7
そう思わない	44.2	34.2	38.1

授業で話し合いや発表がよく行われていると感じている生徒の平均正答率は、そうでない生徒に対して高い傾向が見られる。

仲間と協働して課題の解決に取り組んだり、他者に自分の考えを分かりやすく表現したりする学習活動の充実を図りながら、思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたい。

